

注目の
私立中高
一貫校

2020年

この 学校のここが スゴイ!

プレジデントファミリー特別企画
プレジデントムック
「中学受験大百科」特別付録

プレジデント
Family



今、留学に
求められるのは
何か？

国境を超えた 人的ネットワークの魅力



留学生倍増を目的とし、2013年度にスタートした
官民協働プロジェクト「トビタテ！留学JAPAN」が
今年度、目標年次を迎え、新たなステージへ。
一方、海外研修・留学制度を整える私立中高一貫校が増えています。
留学により育まれるものとは何か。
「トビタテ！留学JAPAN」プロジェクトマネージャーの荒畦 悟さんに
コアネット教育総合研究所の福本雅俊さんがうかがいました。

人事採用で実感した日本の危機 若い世代をもっと世界へ

福本 2013年にスタートした「トビタ
テ！留学JAPAN（以下、トビタテ）」は、
2020年までに大学生、高校生の留学を倍

増させることを目標と
していますが、どのよ
うな状況ですか。

荒畦 トビタテ！スタ
ート時の大学生の留学
は6万人程度でしたが、
2017年度には10万
人を突破しました。高
校生は3万人程度だっ
たのが同年度には4・

7万人になっています。高校のほうは少し伸
び率が振るいませんが、過去最高の人数です。
福本 グローバル教育の一環として、海外研
修や留学制度を取り入れる私立中高一貫校が、
近年かなり増えていますから、その反映もあ
るでしょうね。ところで荒畦さんは、トビタ

テ！のスタート当初から、民間出身スタッフ
として関わっていますが、どのような思い
でこのプロジェクトに参画したのですか。

荒畦 一言でいえば、目的への共感に加え、
それまでの自分の経験を活かせると思ったか
らです。私は高校時代に姉妹都市交流で、米
国にホームステイした経験から海外への目を
開かれ、上智大学へ進んでからはNPO法人
アイセック・ジャパンの活動に従事しました。
アイセックは世界的な学生組織で、日本の学
生を海外のインターンシップに送り出したり、
海外から受け入れたりする活動内容でした。

就職してからは主に人事畑で、新卒採用や人
材育成といった仕事を担当していました。
福本 時代としては、日本企業のグローバル
化が進んだころですね。

荒畦

そうなのですが、グーグルジャパンでエンジニアの新卒採用チームにいたころ、印象的だったのは、日本のエンジニアの応募がほとんどなかったことです。応募してくるのは、中国人とインド人が圧倒的に多く、世界でトップレベルのエンジニアが日本に少ない。その実情に触れたとき、日本はこのままで大丈夫なのかと危機感を持ちました。自分の海外体験や人材育成の経験と危機感。日本の若い世代にもっと世界を知ってほしい、海外に目を向けてほしいという気持ちがあったので、トビタテ！のスタッフ募集があったとき、一も二もなく応募しました。

学力・英語力は問題ではない 大切なのは好奇心、情熱、獨自性

福本

トビタテ！は「海外留学に自ら一歩を踏み出す機運の醸成」を目的としていますね。これから社会に出ていく世代は、世界を舞台として活躍することを求められるのですが、そこでトビタテ！が重視しているのは「自ら一歩を踏み出す」ことです。

荒畦

そう、主体性です。トビタテ！の「日本代表プログラム」では、派遣留学生を奨学金で支援するのですが、その選考基準は「好奇心、情熱、獨自性」で、学力・英語力はそれほど問題にはしていません。主体的に学ぶ意欲や好奇心が最も大切だと考えています。

福本

昨今、グローバル教育、キャリア教育など、さまざまな「ワード」があふれていますが、結局のところ、求められるコアの部分は同じで、文科省がうたう「学力の三要素」でいう「主体的な学習態度」をどのようにして育むのか、ということが大きなテーマだと

私も思っているんです。つまり、社会で必要になるスキルを身に付ける以前の、マインドを醸成することが大事ではないかと。

荒畦

同感ですね。トビタテ！に携わってき、て実感するのですが、海外に行くことの価値は何かといえ、それは日本の当たり前を疑ってみる視点を持てることだと思います。日本は同調圧力の強い国で、皆が横並びでいるの、がいいことのような風潮があります。でも、この先どんな変化が起こるかわからない今、それでは多様な変化に対応できません。日本の常識から離れ、自分とは異なる価値観に触れて考える、そういう感性を養うことが、若いうちに必要だと思います。海外留学は、いわば一人でアウェイの状況に身を置くのですから、自ら行動しなければ何も起こらないという点でも主体性が養われていくと思います。

変動する社会をどう生きるかは 子供たちにしか決められない

福本

高校生の場合、留学先や留学期間はどうなるようになっていきますか。

荒畦

留学先は米国とオーストラリアではほぼ半数を占めます。次いでカナダ、イギリス、ニュージーランド。アジア圏の国はまだ少ないですね。留学期間は、3カ月未満がほぼ9

割を占めます。

福本

先ほど、大学に比べて高校での留学は伸びが鈍いということでしたが、何か事情があるのでしょうか。

荒畦

特に地方の公立校に顕著なのですが、保護者にも学校にも、子供を留学させようという意識が低いですね。生徒の立場からすれば、三つの格差があると思います。経済格差と情報格差、そして意識格差です。

福本

経済格差は地方でも、さまざまな留学支援制度の利用で埋められますよね。

荒畦

ええ、情報格差と意識格差のほうが大きいと思います。前者は、まわりに留学経験のある人が少ないので、情報が入ってこない。意識格差は、保護者や先生の意向が強く働くせいだと思いますが、学校の授業や部活が優先で留学は二の次三の次という環境なので、生徒たちもそれに慣らされている。

福本

大人の側が、意識を変えていかなければなりませんね。

荒畦

私も含めて大人は結局、過去の実績でしかものを語れない。これからの社会をどうとらえ、どう生きるかは、当事者である子供たちが決めることなんです。世界を見てきた若い世代が社会を変えたとか、国を支えたという例は、歴史上いくつもありません。



荒畦 悟さん
Araune Satoru

官民協働海外留学創出プロジェクト
「トビタテ！留学JAPAN」
プロジェクトマネージャー

上智大学在学中に、NPO団体アイセックに所属し、海外インターンシップの普及に努め、代表を務める。卒業後、(株)リクルートへ入社。人事として新卒採用に携わり、その後、(株)フィッツコーポレーション、グーグルジャパンを経て、2014年、官民協働海外留学プロジェクト立ち上げメンバーとして参画した。

*「トビタテ！留学JAPAN」のプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を踏まえ、今後の予定、新たな募集等の実施に関しては、検討中です。

福本 明治維新前後の日本。欧米に学んだ若い世代が、日本の近代化に大きく貢献したのは、多くの人が知るところでしょう。

荒畦 都市部の、それも私立校の場合は、海外研修や留学制度を整えている学校が多いので、それを経験した先輩たちの話を聞いて、自分もという生徒が出てくる。さらに、中高一貫校だと高校受験がありませんから、中3や高1で海外に出してやりやすいということもあります。子供に広く世界に目を向けてほしいと思うなら、そうしたまわりの環境も大切になると思います。

世界各地に拡散している人々と日常的に情報交流できる魅力

福本 留学した学生や生徒には、海外と関わる仕事をしている人が多いのですか。

荒畦 はい、海外と関わりつつ社会課題の解決に携わる人が多いです。最近、SDGs（持続可能な開発目標）の17分野のうち、1から6の分野で活躍している人たちの情報を集める機会がありました。1から6は、貧困、飢餓、健康と福祉、教育、ジェンダー、水とトイレの問題を解決していこうという行動目標です。

福本 SDGsは今後の社会のさまざまな面で、世界共通の評価指標になると思います。

荒畦 その意味では今、最先端で活躍している人たちともいえるのですが、すごかったですよ。トビタテ！で留学した人たちに呼びかけたら、ものの5日間で50人を抽出できました。それも「ベトナムで水質の研究をしています」とか「アフリカで起業しました」、「欧米の貧困について勉強しています」など、6分野まんべんなく、活動している人たちが情



福本雅俊さん
Fukumoto Masatoshi

コアネット教育総合研究所

横浜研究室室長

日本キャリアデザイン学会会員

私立高校の教員を経て、2006年、同研究所に入所。キャリア教育を主領域としながら、子供たちの未来を応援するための教育活動に関する支援を中心に、学校経営をサポートしている。

報を寄せてくれたんです。

福本 確かに、それはすごい。トビタテ！を通じて、グローバルな課題解決の現場で活躍している人たちのネットワークというか、コミュニティができるんですね。

荒畦 それが留学のいいところです。彼らの向こうには、現地で一緒に仕事や研究をしている人たちがいますから、非常に多様で広範な課題解決型のネットワークが、そこに潜在しているわけです。海外ではなく、国内にいる人でも、留学先で知り合った人たちと、SNSなどで日常的にお付き合いをしている人はたくさんいますよ。

世界に広がるネットワークこそが価値

荒畦 世界に目を向けることや、主体的に行動する資質などは、ボランティアやインターンシップなどで国内にいても養えるかもしれませんが。しかし、仕事に関わらず、海外の多様な人と日常的に情報交流ができるような環境を求めるなら、留学は最もよい機会。その機会を、できるだけ若いうちに獲得してほしいと私は思っています。

福本 そういう話を聞くと、これからの学校のあり方を考えさせられます。トビタテ！も

そうですが、世の中へ出て学べることはたくさんありますから、多様な場所で多様なことを学んできた人たちが、その情報と経験を持ち寄って考え、自分たちにできることをやってみる。学校が、そういう学びのプラットフォームであってほしいと。

荒畦 トビタテ！は、まさに今言われた学びのプラットフォームだと思います。日本の学生・生徒が、世界100カ国以上に飛び立つて、多様な経験をして帰ってくるのですから、トビタテ！は留学促進が目的ですが、2021年度以降は、帰国した留学生たちのコミュニティによる社会課題解決に力を入れていくとも考えています。一人の体験・知識にとどめないで、それを活かすコレクティブジョニアス（集合天才・集合知）のプラットフォームになりうるだろうと思っています。

福本 最近では、従来の「グローバル教育」「語学学習」というとらえ方が変わってきています。私立中高一貫校の留学・海外研修も、語学学習だけを目的とするのではなく、事前に学んだことを現地で調査するなど、課題探究型の学習を取り入れる学校が増えています。荒畦さんのお話をうかがい、なぜ留学するのか、その価値を再認識できました。本日はありがとうございました。

Homepage



佼成学園中学校・高等学校

「男子×グローバル」の新コース誕生 グローバルリーダーを育成する

from the School



榎並紳吉校長

本校で自分の得意なことを見つけ、「人間力」の器を大きく育ててほしい。



上／モンゴルでの異文化体験プログラム。ゲルでの宿泊や独特な文化を持つ現地の生活を体験する。



左／タイ・フィールド実践プログラムでは、現地の中学生と交流する。



上／国際交流委員長で英語科の小塩雅一先生。

右／世界平和を実現させる人材を育成する「グローバルコース」が新設される。国際系学部や海外大学への進学を目指す。



左／マニラ平和学習では、現地の子供たちと一緒に、住んでみたい地球の姿について考えてプレゼンテーションを行う。

右／学習ツールとして1人1台iPadを持ち、オンライン英会話などにも活用する。



海外や国際系の大学への 進路を拓く「新コース」

モンゴルをはじめとするアジア諸国や欧米など、佼成の世界的なネットワークを活用した、グローバルリーダープロジェクト（以下、GLP）に取り組んできた佼成学園中学校・高等学校が、2021年度、新たに「グローバルコース」を開設する。

榎並紳吉校長は、新設の理由と目的を次のように説明する。

「4年前、異文化体験、語学研修、平和学習を軸に、課外授業としてスタートしたGLPの人氣が非常に高く、志願者が年々増えたことから、グローバル教育に特化した新コースを、中学と高校に同時開設することになりました。『平和な社会の繁栄に役立つ若者の育成』が本校の建学の精神。新コースでは中高6年間を通じて、真のグローバルリーダー育成を目指し、その土台となる人間性・人間力の器を大きくするための、多様な教育プログラムを提供していきます」

中学・高校ともに「グローバルコース」は、学年1クラス（定員35名）を予定。中学は「グローバルリーダーになるための素養を磨く」時期と位置づけ、GLPで特に好評だったモンゴル、フィリピン、タイで行った異文化体験海外プログラムを用意するほか、探究学習を盛り込んだグローバル教養講座や、使える英語の強化を図る授業を拡充させる方針だ。

国際交流委員長で英語科の小塩雅一先生は、「GLPを振り返ると、中学生はやはり実践的英語力が足りません。そこで、スピーキング力などのレベルアップを目指し、ネイティブ教師の授業率を高くするほか、iPadを使ったオンライン英会話レッスンも導入します」と語る。

同校のグローバル教育の特色である、海外のフィールドワーク体験の事前学習・事後学習も、新コースでは、渡航先の国が抱える課題と背景について、探究をより深化させつつ、国際的教養を育成する。

体験に重きを置く中学に比して、高校は学習ベースのプログラムが中心になるが、魅力的な海外フィールドワークや、留学システムも数多く用意している。なかでもアメリカの大学訪問や現地の企業家との交流を通して、グローバル社会の多様な視座と、海外で活躍する手法を学ぶポス্টン研修は、海外大学や国際系学部への進学を促す好機となるに違いない。

世界へ羽ばたく男子の育成を旨とする佼成学園の教育エッセンスが、凝縮した新コースといえよう。

School Data

〒166-0012
東京都杉並区和田2-6-29
☎03-3381-7227
<https://www.kosei.ac.jp/boys/>

- 創立 1954年
- 交通 東京メトロ丸ノ内線「方南町」駅から徒歩約5分

コアネットの目

社会の変化に柔軟に適應できる人材を育てる積極的なICT活用 ▶ 生徒1人1台のiPadを他校に先駆けて導入し、校内にはICTを活用した学習が根付いている。だからこそ、対面授業ができない状況下でも対応は非常に柔軟だ。オンライン授業への切り替えを早々に決断し、準備も実践もしっかりと行った。このような姿勢・環境の下、生徒は予測不能な社会にも柔軟に適應できる人材へと育っていく。

佼成学園女子中学・高等学校

Homepage



英語を基軸に他教科も向上 課題研究を通じて探究力を育てる

from the School



国際部長 宮川典子先生

英語に触れるすべての経験が自信につながり、生徒は6年間で目覚ましく成長します。



左／スーパーグローバルクラスでは高2の夏に、タイ山岳地帯の少数民族の村でフィールドワーク研修を行う。

下左／中3の修学旅行はニュージーランドへ。希望者はそのまま現地に残り2カ月間の中期留学に入る。ホームステイをしながら現地提携校に通う。

下右／アジア諸国で日本語を学ぶ高校生を招くアジア高校生架け橋プロジェクト。



音楽、美術などの実技科目を外国人教師が英語で行うイマージョン教育を実施。授業に限らず、学校生活のすみずみに英語が自然に浸透し、異文化に触れる環境が整えられている。



英語力と異文化研究の スーパーグローバルクラス

2014年にいち早くスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定され、2015年には、高校では従来の特進留学コースに加え、ハイレベルな国際知識・教養を身に付けるスーパーグローバルクラス（以下SGクラス）を創設。「英語の俊成」から「グローバルの俊成」へと飛躍。進学実績の伸びも著しい注目校だ。

英語を軸とした教育は、中学校入學時から一貫して行われる。中1では実に週の総授業数の3分の1、10時間を英語関連授業とし、徹底した習熟度別、少人数指導を行う。このうち2時間は、イマージョン教育として音楽と美術をネイティブの外国人教師が英語で行う。

「実技で体を動かしながら英語をシヤワーのように浴びることで耳が慣れ、細かな意味がわからなくても文脈の中で英語を理解する力を体得し、英語への心理的プレッシャーも払拭できます」と広報室副室長の楓渾一郎先生が説明する。

英検®にも力を入れており、試験の2週間前から全校をあげて「英検まつり」を実施。毎朝25分間、英単語と英熟語の暗記にチャレンジし、放課後には「英検対策講座」を開くなど細やかな指導を行う。

中学での英語学習の仕上げともいえるのが、中3でのニュージーランド修学旅行と、希望者が続けて参加する2カ月の中期留学だ。修学旅行

ではファームステイや現地の学生との交流を行う。中期留学ではホームステイをしながら提携校に通うことで、英語へのモチベーションアップや自信へとつながるといふ。

SGクラスは、高2でタイの山岳少数民族の村で生活体験。現地のNGOや国際機関を訪問し、各自が設定したテーマでフィールドワークを行う。高3ではアジア・アフリカ研究で世界的に有名なロンドン大学SOAS校で、アカデミックライティングの指導を受け、タイでのフィールドワークを英語で論文にまとめる。「SOAS校の授業はディスカッションやディベートを中心にインタラクティブ（双方向）で行われます。2カ月で英語で論文を仕上げ、プレゼンテーションを行います。異文化のなかで視野を広げるこの経験が自己を見つめる機会になり、キャリアを決める一助となっています」と国際部長で英語科の宮川典子先生。英語力と人間力を身に付け、大学入試でも目覚ましい結果を出している生徒たち。今後の活躍が楽しみです。

School Data

〒157-0064 東京都世田谷区給田2-1-1
☎03-3300-2351(代)
<https://www.girls.kosei.ac.jp/>

- 創立 1954年
- 交通
 - 京王線「千歳烏山」駅から徒歩6分
 - 小田急線「千歳船橋」駅から京王バスで約15分「南水無」下車すぐ
 - 小田急線「成城学園前」駅から小田急バスで約20分「千歳烏山駅」下車、徒歩6分

コアネットの目

英検®1級4名、準1級31名の実績と好調な進学実績▶英語授業時間の豊富さと、自習学習、授業講習、校内予備校の三位一体システムにより、驚異の学力伸び率を実現。高大連携に積極的で、豊富な指定校枠があることも魅力の一つ。2020年度入試では、国公立大学に23名、早慶上智に32名が合格。進学実績は右肩上がりで伸びている。英語力を武器に、グローバルに活躍できる人材に育つことができる学校だ。

Homepage



神田女学園中学校高等学校

現地型ダブルディプロマプログラム 海外留学の新しいかたちが本格始動

from the School



宗像 諭校長

ネイティブ教員12人と教員の半数がバイリンガル。DDPや国際交流など英語が日常の学校生活。



上／2つの高校の卒業資格を得られる「ダブルディプロマプログラム」。アイルランドの提携校に留学中！

左／ネイティブ講師やバイリンガルの先生が多く、K-SALCルームでは言語習得のためにレッスンが行われている。



右／中3から始まる「トリリンガル教育」。第二外国語として、韓国語、中国語、フランス語、日本語のなかから選択できる。

左／伝統のあるソフトボール部。昨年、全国中学体育大会で優勝を果たす。



上／オーストラリアの姉妹校の生徒たちが来日。「国際交流が日常」の環境がある。

右／9月に開催される文化祭「姫竹祭」。趣向を凝らした出し物も楽しい。



世界に通用する卒業資格 海外大学への進学も有利

次世代に求められる真のグローバル教育とは何か？ 創立130年の伝統校、神田女学園で大胆な教育改革を展開している宗像諭校長が問う。

「英語学力の向上や英検®取得などを主体とした教育が、本当のグローバル教育といえるのでしょうか。特に私学の女子校を選ぶ次世代の教育を求めている保護者は、明らかにそういう疑問を抱いています」

同校は「革新的女子教育」を掲げ、その一つの取り組みとして第二外国語を学ぶ「トリリンガル教育」を展開してきた。母語の運用能力を高めたうえで英語力を強化。さらに中3からは第二外国語（仏・中・韓・日）を選択する。

「例えば、最近では国内大手の航空会社でも、英語とそれ以外の言語が使えないと、CA要員として採用されません。他業種でもその傾向は強まっています。これからの多言語化時代を見越せば、第二外国語にも早いうちから慣れ親しんだほうが10年後の社会で活躍できると考えます」

そんな同校が、新たに打ち出したのが次世代型の留学制度「ダブルディプロマプログラム（DDP）」だ。DDPは留学先の現地校と同校、両方の卒業資格を得られる制度だ。DDPを取得すると、国際的に一定の学力レベルに達していると認められ、海外の大学への進学や、国内の大学

進学でも有利になる。留学先はアイルランドの名門で共学のロックウェル校。留学期間は高1夏からのおよそ2年間。

「アイルランドの学校は、英語を母国語としないEU諸国の生徒が留学するため、ロックウェル校も国際性が豊かです。母国語の違う生徒たちが英語を介して理解し合う、本当の意味でのグローバル環境があります」

DDPは2020年度からスタートするが、先行して1名が留学している。スペイン人の友達から、スペイン語も習っているという。

「ロックウェル校に次いでニュージーランドの姉妹校、カナダのバーナビー学校区の高校ともDDPの教育提携を結びました」と宗像校長。

従来の体験的な留学の枠を超えた、本格的な学びのための留学。世界へ向けた新たな扉が開かれている。

School Data

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-3-6

☎03-6383-3751

https://www.kandajogakuen.ed.jp/

●創立 1890年

●交通

- JR総武線・都営三田線「水道橋」駅から徒歩約5分
- 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町」駅から徒歩約5分
- JR中央線・東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅から徒歩約10分
- 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅から徒歩約12分
- 東京メトロ東西線「九段下」駅から徒歩約12分
- 東京メトロ丸ノ内線・東京メトロ南北線「後楽園」駅から徒歩約12分

コアネットの目

毎年20～30名の留学を支える語学力とICT活用▶短期・中期の留学制度が充実し、留学が身近な同校では、中3の英検®2級の取得率も約8割と高水準。また1人1台のノートPCを活用した個別最適学習もいち早く導入済みで、新型コロナウイルス予防のための休校期間も、オンライン面談や動画配信授業など、学びを止めない対応が取られている。

共立女子第二中学校高等学校

Homepage



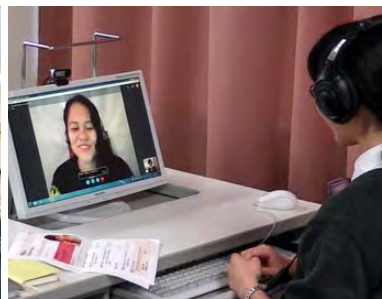
多彩な英語学習プログラムを導入し 世界で活躍できる人材を養成する



from the School

国際交流委員長・英語科 高橋 学先生

八王子の自然に包まれた素晴らしい環境のなかで、伸び伸びと学べる女子校です。



上/スピーキング対策として、オンライン英会話レッスンを全員受講する。

左/さまざまな音読トレーニングを行い、独自の4技能統合型授業を展開する。



校内のファームで、夏野菜や大根やさつまいもなどを栽培する。収穫した野菜は、家庭科の調理実習で使用することもある。



右/教科書を使って英語のドラマをつくり上げていく、ドラマメソッドの授業。

左/来日したニュージーランドの姉妹校の生徒と一緒に授業やイベントで交流する。



自然豊かなキャンパスに充実した施設、学習環境は抜群だ。

伝統の体験型教育と 実践的英語学習が特色

日本の女子教育のパイオニアである、創立134年の共立女子学園。その薫陶を受け継ぐ共立女子第二中学校高等学校の多彩な特色のなかから、次の三つに絞って紹介しよう。「抜群の学習環境」「体験重視の教育プログラム」「実践型の使える英語教育」だ。

まず、八王子市の郊外に位置するキャンパスは、東京ドーム5個分の広さ。武蔵野の豊かな自然に包まれた環境のなか、中学生は理科の時間に、ファームでの野菜作りや動植物の観察などを、伸び伸びと学ぶことができる。

学舎内に目に転じれば、6万冊の蔵書を誇る図書館や、1500人収容可能な大講堂も。設備の充実した理科の実験室では、中学3年間で100回もの実験が行われる。ハード面（設備）でもソフト面（教育プログラム）でも、実に引き出しの多い学校なのだ。

4技能統合型の英語教育も注目に値する。中1では、教科書をベースとした英語劇を導入。生徒自ら、脚本・演出・上演を手掛ける。中2では、福島県の研修施設「プリティッシュヒルズ」で集中英語研修を実施。中3では集中英語講座「イングリッシュシヤワー」や、在日外国人留学生と英語で交流する「エンパワーメントプログラム」を導入。授業で培った英語4技能を実践するプログラ

ムが目白押しだ。

新しい動きもある。2022年度から、高校に「英語コース」（1クラス30名）が開校予定だ。

「今年、共立女子第二高校が創立50年を迎えたのを機に、『中学で積み重ねた英語力を高校でさらに強化したい』『将来のキャリアに英語力を活かしたい』と考える生徒を対象に英語コースを新設することにした」と語るのは、国際交流委員長・英語科の高橋学先生だ。

最大の目玉は、英会話学校「ベルリッツ」と提携して行う授業の導入と、全員参加のニュージーランドタム留学（3カ月間）だ。後者は高1の3学期に実施。生徒たちはホームステイしながら、現地の高校の授業に参加する。高2では英語の授業を週12時間（うち、ベルリッツの英会話講座5時間）に増やし、留学で身に付けた英語力のブラッシュアップを図る予定だ。

「本校の実践的な中学英語を通じて『使える英語』に目覚め、英語コースに進みたいと目を輝かせる中学生も多いです」と高橋先生。

School Data

〒193-8666
東京都八王子市元八王子町1-710
☎042-661-9952
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nichukou/>

- 創立 1886年
- 交通 JR中央線・京王線「高尾」駅、JR中央線「八王子」駅南口からスクールバスあり。みなみ野・七国循環ルートも運行
※スクールバスは無料

コアネットの目

現役の大学進学率95%。挑戦と安心の進路システム▶同校には、共立女子大学（家政・文芸・国際・看護・ビジネス学部）・短期大学の推薦合格を保持したまま、外部の大学を受験できる「併設高校特別推薦制度」があり、多くの生徒が活用している。大学入試改革の過渡期の今だからこそ、安心して志望校に挑める進路システムを使わない手はないだろう。

十文字中学・高等学校

Homepage



厚みのある英語指導とグローバル教育で これからの社会を生き抜く力を養成する

右／中3で行われるオーストラリア研修はほぼ全員が参加。クイーンズランド大学を見学。

下／オーストラリア研修ではホームステイを体験する。



●早稲田大学1年・日下美海さん(右)

高1でオーストラリア短期留学に参加。高3で英検[®]準1級を取得。「私は高入生でしたが、留学を希望するクラスメイトが多くてびっくり。彼女たちに刺激を受け、私も参加を決めました」

●国際基督教大学1年・樋口絹香さん(左)

高1の秋から高2秋まで、オーストラリア長期留学に参加。高3で英検[®]準1級を取得。「英語のコミュニケーション力が身に付いただけでなく、留学が宗教やジェンダー問題を考えるきっかけになりました」



英語科の水野聡子先生。

from the School



海外留学プログラム担当
本多弘佳先生

“英語好き”を増やす工夫と、多彩なプログラムが特色です。



英語での発信力を育成するための授業が充実している。iPadを使って音読録音トレーニングを行っている。

中3時の海外研修で 英語熱を盛り上げる

大正時代に欧米の女子教育を視察した創立者・十文字ことの進取の精神を、今も脈々と受け継ぐ十文字中学・高等学校。グローバル社会を生き抜く強さを大切にする校風は、厚みのある英語指導と、多彩なグローバル教育に体现されている。

その登竜門ともいえるのが、中学3年の春にはほぼ全員参加で実施される、10日間の海外研修だ。渡航先はオーストラリアのブリスベン。1名ないし、2名1組でホームステイしながら、ESL（英語を母語としない人のための英語）特別授業を終了後、現地校6校に分かれて授業を体験する。「現地校それぞれの特色を反映して、先住民アボリジニの文化に触れる体験や農業体験、オーストラリアの伝統菓子作りなど、プログラムの内容はさまざまです。ホームステイ先で言葉が通じず、少し心細い思いをしたという感想も聞かれますが、その体験を機に、帰国後は英語をもっと頑張ろうと、学習のモチベーションが高まる生徒が多いですね」と、海外留学プログラム担当の本多弘佳先生は言う。

「中学の段階で『英語好き』を増やすことが大事です。そこで、授業以外に、イースターエッグやハロウィンのカード作りといった、楽しさ重視の英語プログラムを多数用意するなど、工夫をしています」（本多先生）

一方、高校の授業では、グローバ

ル教育と大学受験対応の学びの両立を目標に、英語4技能のレベルアップを図る。

「特に力を入れているのが、書く力と話す力を支える英文法の強化です。例えば、高2文系コースでは、週10コマの英語のうち、3コマを文法に割り当てています。また近年、外国人講師による英会話レッスンも拡充。授業でトレーニングした、英語による自己表現力を、高1・高2のスピーチコンテストで披露しています」と英語科の水野聡子先生。

高1の希望者を対象に実施する短期と長期のオーストラリア留学プログラムも、年々、志願者が増え、昨年度は短期留学に7名、長期留学に4名が参加した。卒業までに英検[®]準1級を取得した参加者も多い。英語力のアップだけでなく、視野が広がり、将来のことを考える機会にもなるという。

手厚い英語指導と多彩な海外研修・留学プログラムで、グローバル社会での活躍を目指す女子を、6年間かけてじっくりと育ててくれる学校だ。

School Data

〒170-0004

東京都豊島区北大塚1-10-33

☎03-3918-0511

https://js.jumonji-u.ac.jp/

●創立 1922年

●交通 ●JR山手線「巣鴨」駅・「大塚」駅から徒歩約5分

●都営地下鉄三田線「巣鴨」駅から徒歩約5分

●都電荒川線「大塚駅前」駅から徒歩約5分

コアネットの目

生徒の学ぶ意欲を育てる「Move onプロジェクト」▶ 難関大学合格者を多く輩出する十文字。背景の1つは2016年始動の「Move onプロジェクト」である。プロジェクトには生徒の興味関心と学習意欲を高め、さまざまな資質を育む取り組みが満載。さらに授業だけでなく外部での学びも推進する。生徒は学ぶ意欲を学内外で高め、それを原動力として難関大学合格を勝ち取っている。

東京女学館中学校・高等学校

Homepage



伝統女子校から世界へ！
国際学級が積み上げてきた教育力



from the School

国際学級担任 青木理恵先生

国際学級は教室そのものが異文化と接する場。人間力も学力も6年間で大きく伸びます。



国際学級の高1全員が参加するポストリーダーシップ研修で国連本部を見学。

国際学級主任のクリスタル・ブルネリ先生。「国際学級は日本人教師と外国人教師の2担任がつきます」



さまざまな場所で多くのプロジェクトに取り組む。



上／世界各地にある友好校から訪問団を受け入れている。タイの高校生と一緒に。

右／中学英語の集大成、中3の「ロミオとジュリエット」。英語表現が磨かれ、精神的にも成長する。



提携校 Dana Hall School のサポートを受けて挑む「校内模擬国連」。英語で白熱した議論をする。



中2の English Poetry の授業。英詩の形式や韻について学び、内容をディスカッションする。

国際基準の英語教育を 土台にした主体的な学び

日本の女子教育の草創期に開学した伝統校の一つ、東京女学館。1888（明治21）年の建学以来、「高い品性を備え、人と社会に貢献する女性の育成」を教育目標とし、さまざまな分野で活躍する卒業生を数多く送り出している。2004年には国際基準の英語教育をいち早く導入した「国際学級」を開設。11期生を送り出した今、新たな形の教育の場としてますます価値を高めている。「国際学級」というと、英語力の高さこそが、このクラスの価値はそれだけではありません。多様なバックボーンを持つ生徒が互いを認め合い、主体的な学びの姿勢を身に付けていってほしいというのが当初からの理念。生徒たちは本当にその通りに育っていると実感しています」と国際学級担任の青木理恵先生。

同学級は、帰国生（英語圏以外を含む）、一般生、内進生が混在し、生育環境の違いや英語力の差はかなり大きい。そうした生徒たちが6年間クラス替えなく持ち上がり、人間関係を構築していく。その成長度合いは教員から見ても驚くほどだという。学びの土台となっているのは、ランゲージアーツ（北米型の英語教育）をアレンジした英語の授業で、論理的な読み書きのほか、ディスカッションやプレゼンテーション、演劇パフォーマンスなどをレベル別の少人数グループで展開。その過程で「クリティカルシンキング（疑問を発し、調べ、考えを深める）」を習慣化し、これが他教科においても強みとなっていく。「国際学級の生徒は、勉強をやられるのではなく、自分が疑問に思うことを知りたい、という気持ちから勉強している」と青木先生。そんな学ぶ姿勢の成果の一つが、英語カリキュラムの一環であり、社会科と教科横断する「校内模擬国連」だ。

高1から準備し、提携校 Dana Hall School のサポートを得ながら高2で校内大会を開催。昨年度はシリア難民の問題で二つの決議案を出すことができ、「年々レベルが高くなっています」と国際学級主任のクリスタル・ブルネリ先生。英語で白熱した議論を交わすだけの能力を持つ生徒たちは、進路も自らの力で選択。国際クラスの約6割が海外大・国公立大・難関私大（早慶上智ICU）・GMARCHへ進学。3女子大も含め多くが希望の進学を実現させていく。国際学級が積み上げてきた教育力を示す一つの結果といえるだろう。

School Data

〒150-0012

東京都渋谷区広尾3-7-16

☎03-3400-0867

http://www.tjk.jp/mh/

●創立 1888年

●交通 ●東京メトロ日比谷線「広尾」駅から徒歩約12分

●JR「渋谷」駅、「恵比寿」駅から都営バスで約10分「東京女学館前」下車すぐ

コアネットの目

充実の学習・進路指導体制とICT利活用で志願者増 ▶ 2020年入試では国際学級、一般クラスともに志願者が増えた。定評のある国際教育はもちろん、朝や放課後、長期休業中に開かれる200以上もの無料学習講座や「訂正ノート」などの学習フォロー・進路指導体制、1人1台のiPadを活用したICT教育の推進などの取り組みが評価されている。

横浜女学院中学校高等学校

Homepage



広く世界の人々と協働し、持続的な発展に貢献できる国際人を育てる

from the School



英語科 白井龍馬先生

物事を正しく受け止め、誠実に解決を目指すキリスト教精神を土台とした学びを進めています。



左／壁のない職員室は、個人授業や進路指導の場になる。

下左／中3全員参加のニュージーランド海外セミナー。国際教養クラスはホームステイしながら語学学校に通い、姉妹校、提携校で協働学習を行う。

下右／英語学習の一貫としてアプリを使用。アプリは家庭学習にも活用できる。



上／大学の留学生など英語を第一言語とする人々とのディスカッションの場を多く設定。



右／国際教養クラスは、ネイティブ教員と英語科教員が担任を務める。



ESDはスタートして5年、CLILは4年目だが、その効果は外部スピーチコンテスト決勝進出、英検[®]準1級取得率アップや、外部模試の好成績といった結果となって表れて井龍馬先生。

ESDはスタートして5年、CLILは4年目だが、その効果は外部スピーチコンテスト決勝進出、英検[®]準1級取得率アップや、外部模試の好成績といった結果となって表れて

「2018年度は生物、2019年度は聖書や音楽を英語で学びました。英語で学ぶというハードルが高いように感じますが、生徒たちには英語で学べたという自信になるようにグローバルな目線を育てることもつながっています」と、英語科の白井龍馬先生。

ESD(持続可能な発展のための教育)では、学年ごとに設定された題材のなかから自ら課題を発見し、情報を集めて結論を導き発表する。その過程で社会や世界に向けて視野を広げ、体系的思考力やデータ分析力、コミュニケーション能力、リーダーシップなどを実践的に身に付けていく。

CLIL(内容言語統合型学習)はさまざまな教科を英語で学び、英語で理解し、考え、意思を伝える英語運用能力を磨く。ディスカッションやレポート、情報収集のためのリサーチやリスニングを繰り返し、教科の学びを深め、英語4技能を鍛える。

ESDとCLILの両輪で英語力と国際的視野を養成

キリスト教に基づく人間教育と、こまやかな指導体制で知られる横浜女学院中学校高等学校。今、注目されているのが、ESDと、CLILによる英語教育だ。

School Data

〒231-8661
神奈川県横浜市中区山手町203
☎045-641-3284
<https://www.yjg.y-gakuin.ed.jp/>

- 創立 1886年
- 交通 ● JR京浜東北根岸線「石川町」駅から徒歩約7分
● 横浜市営地下鉄ブルーライン「伊勢佐木長者町」駅から徒歩約18分

さらに同校の特筆すべきところは、中学入学時に初歩から始めた生徒も段階を踏んで自然と力を付けられることだ。中1・中2は英語の基礎期ととらえ、中2ではCLILの準備期として英語で日記を書き、何度かペーパーを変えながら互いに発表する。これを発展させる形で、意見を言い、相手に反応し、ディスカッションできるように自然と導いていく。

生徒たちのモチベーションとなっているのが、中3でのニュージーランド海外セミナーだ。現地の学生たちと意見交換などを行い、大きな自信をつけて帰ってくる。

日ごろの授業でも元国連職員の大津教授や企業インターン生を招くなど、英語をツールとして使う場も豊富に用意されている。

「本校の教育の根底にあるのは、困っている他者を助けたという優しさ。それが聖書の教えであり、横浜女学院ならではの学びです」と白井先生。新たな教育を受けた生徒が巣立つ来年に、大きな期待が集まる。

コアネットの目

学習意欲を引き出すCLILの導入で着実に成果を出している学校 ▶ 高2の時点での英検[®]2級・準1級の合格率が年々上昇、2019年度は5割の生徒が2級を1割の生徒が準1級を取得。2019年は海外大学への合格も2校実現した。他教科を英語で学ぶ上級生を見ている下級生は、「いずれは自分も」と学習に積極的だ。第二外国語にドイツ語、スペイン語、中国語も。世界と自分を近づけグローバル社会で活躍できる力を身に付けさせる同校の教育に注目だ。

和洋九段女子中学校高等学校

Homepage



確かな英語教育と課題解決型授業を展開 学びが広がるグローバル校だ



from the School

中込 真校長

和の文化・精神を大切にしつつ、
世界で活躍できる女性を育てる
学校です。



左／「SDGs探究AWARDS 2019」で優秀賞を受賞した「SDGsすごろく」を文化祭で披露。SDGsについては、中学3年間で段階を追って学びを深めていく。

下左／体育祭の応援合戦。中高合同で行われる体育祭は一体感を醸成し、盛り上がる。

下右／グローバルクラスの英語の授業はネイティブ教員と日本人教員のチームティーチングで行う。少人数の密度の濃い授業だ。



全教科で展開しているPBL型授業にはICTが欠かせない。PBL型授業で生徒たちは積極性も養う。誰もがリーダーになれるシーンがある。



12歳からのスタートを支える伝統と少人数教育

120余年、女子教育の草創期を支えてきた伝統校の一つ。近年は英語教育に力を入れている。

まず教育の場として同校の環境が優れているのは、1クラス約30名編成で1学年3クラス（グローバルクラス1クラスを含む）という規模だ。一人ひとりに目が行き届くうえ、ここに6名のネイティブ教員がほぼ専任でつぎ、日本人教師とともに英語のチームティーチングを行っている。グローバルクラスは、帰国子女や英語力のベースを持つ生徒と、これから英語を頑張りたい生徒が混在。当初はレベル別に授業を進めるが、中2ごろには、英検準2級・2級レベルに到達する生徒も増え、オールイングリッシュの授業に移行するという。

英検対策としては、昨年度からテストストラテジー講座を増設し、全員配布のタブレットで独習できるようにクラウド教材を導入。「英検合格率は前年度から2倍近く上がりました。グローバルクラスだけでなく本科クラスも一緒に底上げできたのはとてもうれしいことです」と中込真校長。本科クラスからグローバルクラスへの移籍も可能だ。

同校のもう一つの特徴、全教科でのPBL型（課題解決型）授業も定着。問いを設定し、調べ、議論し、考えをまとめ、プレゼンテーションして検証する学びの形は、学習効果を高

めているだけでなく、生徒たちの知的興味を引き出している。最近では、中3生チームが作った「SDGsすごろく」が、「SDGs探究AWARDS 2019」の中高生部門で優秀賞を受賞。「形になったものはほとんど外へ発信していく」という学校の方針が、生徒たちのやる気スイッチを押している。企業や大学との連携プログラムにも積極的に動き、「学びを学校の外へ広げていく」と同校の教育テーマになっている。高校ではサイエンスコースを新設。2022年度から導入される「理数探究基礎」科目にいち早く対応する。高度なSTEM教育を展開するための企業連携プログラムは、理系生徒の期待に応えるものとなるだろう。実は同校には指定推薦枠が在籍生徒数を上回るほどあり、進学先は多様。昨年度から英米の名門大学へ推薦入学できるUPPA（海外協定大学推薦制度）にも加盟。海外大学への道も開けた大注目校だ。

School Data

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-12-12

☎03-3262-4161

https://www.wayokudan.ed.jp/

●創立 1897年

●交通 ●東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅から徒歩約3分
●JR総武線「飯田橋」駅から徒歩約8分
●東京メトロ有楽町線・南北線、都営大江戸線「飯田橋」駅から徒歩約8分

コアネットの目

主体性の高まりが学習意欲の向上につながる▶生徒の主体性を重視する教育を推進している。例えば、タブレット利用のルールも生徒からの提案で策定した。これは、生徒が提案したものは否定せず、理由と背景がわかれば採用するという同校の姿勢が、生徒の意欲をかき立てているからだ。こうして育まれた主体性は学習にも活かされ、積極的に発信するようになるという。

桜丘中学・高等学校

Homepage



ICT先進校の楽しい英語教育が4技能をバランスよく伸ばす



from the School

英語科 ロビンズ・ジェイソン先生

英語が苦手な人は、ゆっくり慣れていきましょう。苦手な気持ちがなくれば先に進めます。



上／タブレットを導入して7年目。進化を続けるICT教育は桜丘中学・高等学校の強みだ。
左／中3のオーストラリア研修で。ホームステイをしながら、ケアンズにある姉妹校でバディと一緒に実際の授業を受ける。



英語科の岩元 彩先生。「楽しく英語が勉強できるように、さまざまな方法を工夫しています」



上／中学生は週に3日、給食がある。この日は校長先生も一緒に。
右／英語の授業ではプレゼンテーションの機会も多くある。自分の意見を表現する方法を実践的に学ぶだけでなく、大勢の前で話す力も付く。



上／英語の授業はクラスを分割して少人数で行われる。単語の習得にもタブレットを活用。
右／運動部、文化部とも熱心に活動している。やりたい部活がきつと見つかる。



**苦手でも楽しく学べる
こまやかなカリキュラム**

今年で創立96年、「勤労と創意」の校訓を持つ桜丘中学・高等学校は、教育のICT化にいち早く取り組んできた学校の一つだ。生徒全員に配布しているタブレットが学校生活のあらゆる場面で活躍。なかでも英語教育においては「聞く・話す・書く・読む」の4技能をバランスよく伸ばすために欠かせない学習ツールになっている。

同校の英語のカリキュラムは週7時間で、基礎を固める英語A、ネイティブ教員が担当する英語B、文法などの定着を図る英語演習と三つに分かれる。多角的なアプローチとクラスを分割しての少人数体制(演習のみ習熟度別)が特色で、タブレットを使って教科書プラスαの学びを展開していく。アプリで独習を促したり、ゲーム的な小テストをしたり。音読課題もデータ提出で行い、発音やイントネーションをチェックしてフィードバック。デジタル時代の生徒たちは、タブレット学習によって意欲が引き出されていく。とりわけタブレットが有効活用されるのは英語Bだ。「英語Bは、英語圏の教科書を使用し、ネイティブ教員がオールイングリッシュで授業をします。中1からでもオールイングリッシュでOKなのは、タブレットで事前に学習内容を把握させたり、各自のタブレット画面をホワイトボードに映して共有して、生徒同士でわからないことを聞き合ったりできるから。英語を聞き取れなくても授業が進行でき、徐々に慣れることができます」と英語科のロビンズ・ジェイソン先生。

「今の中学生は、小学校までの英語教育や英語経験の差が大きく、入学時点で、自分は英語ができない」と苦意思識を持つ生徒も増えていますが、まずは英語を学ぶことは楽しい!と思ってもらえるように工夫しています」と英語科の岩元 彩先生は言う。中1ではネイティブ教員が週5時間授業を担当し、放課後はアフタースクールレッスンを設定。アメリカ、イギリス、ニュージーランドなどさまざまな背景を持つ7人のネイティブ教員と英語のアクティビティなどを行う。

同校にはオーストラリアのケアンズに姉妹校があり、中3時に全員参加の異文化体験研修を行うほか、海外研修プログラムが複数あり、希望者は豊富な海外経験もできる。「英語はちょっと苦手」という中1生が、6年間で大きく成長できる学校といえるだろう。

School Data

〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
☎03-3910-6161
<https://sakuragaoka.ac.jp/>

- 創立 1924年
- 交通
 - JR京浜東北線「王子」駅から徒歩7分、東京メトロ南北線「王子」駅から徒歩8分
 - 都営三田線「西巣鴨」駅から徒歩8分
 - 都電荒川線「滝野川一丁目」停留場から徒歩1分
 - 「池袋」駅から都営バスで10分

コアネットの目

ICTでの英語学習と言えば桜丘の代名詞に▶桜丘での英語教育は、イギリス、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドという異なる文化を背景にしたネイティブの教師が週替わりでクラスを担当。ICT教材の活用で生徒一人ひとりの得意不得意を把握。少人数制での機知に富んだきめ細やかな指導に定評がある。進化し続ける桜丘の英語教育から目が離せない。

城西大学附属城西中学・高等学校

Homepage



中学3年の海外研修は全員参加 充実度を増す国際教育プログラム

from the School

斉藤 栄校長



中3の海外研修がひとつの中間目標。高校では中期・長期留学にも挑戦できます。



ネイティブ教員によるオールイングリッシュの授業。グローバル社会に貢献できる人材を育てるために、語学力、国際感覚を身に付ける。



中3・全員参加の海外研修は、クイーンズランド州のブリスベンへ。現地校に通い、ホームステイに挑戦する。多感な時期に異文化体験や国際交流を行う。



「日本」を知るために、体験型教育にも力を入れている。中1の稲作体験では、田植えや収穫を行う。



国際交流推進委員長で英語科の高橋嵩先生。



英語科主任の森田亜美先生。

教科横断の教養教育で 豊かな国際性を育む

一昨年、創立100周年を機に導入された「JOSAI Future Global Leader Program (JFGLP)」。

全員参加による中3のオーストラリア海外研修を核とする、中高一貫の国際教育プログラムが同校の特色だ。

「本校は38年前のアメリカ・オレゴン州の姉妹校に始まり、長く留学制度を整えてきました。以前あったグローバルアーツ (GA) クラスは、中3で全員が留学をしていましたが、生徒の成長は目覚ましく、そのプログラムを全校に広めようと考えたのです」と、国際交流推進委員長の高橋嵩先生 (英語科) が語る。

「JFGLPは海外研修それ自体が目的ではありません。語学力はもちろんですが、重視しているのは、国際人にふさわしい教養を身に付けることです」

研修先はオーストラリアのブリスベンで、期間は2週間。滞在中は現地の家庭に分散してホームステイし、さらに4週間の延長もできる。

この研修を大成とする中学3年間の学習は、英語以外の教科や体験学習なども研修と関連づけて展開される。例えば、中1の稲作体験や中2の鎌倉校外学習などは、日本の文化と歴史を知る大切な機会だ。

「海外研修に行ったとき、教科書で得た知識ではなく、実際に見聞きした体験を英語で話せるように、プロ

グラムを組んでいます」と高橋先生。

一方、英語力の面では、中1で英検[®]5級、中2では4級、中3で3級取得を目標とし、個々が自分の力量に合わせてレベルアップしていけるように学習環境を整えている。

「JFGLPと同じタイミングでICTも導入しました。iPadの英語学習アプリで、授業時間以外にも勉強している生徒が多く見受けられます」と英語科の森田亜美先生。

その成果として中1の英検[®]5級取得者は95%、中2の4級取得者は90%、中2で3級以上を取得した生徒が3割を占めている。

また、英語は週3時間がネイティブ教員によるオールイングリッシュの授業。10人前後の少人数制で「ゲームも取り入れて、楽しみながら会話を高めている」という。

今年度から、体験学習に歌舞伎鑑賞と浅草校外学習が加わる。英語ではTGG (Tokyo Global Gateway) での体験学習も行われている。中3の海外研修へ向けたJFGLPは、一段と充実度を高めている。

School Data

〒171-0044
東京都豊島区千早1-10-26
☎03-3973-6331
<https://josaigakuen.ac.jp/>

- 創立 1918年
- 交通 ● 西武池袋線「椎名町」駅北口から徒歩約7分
- 東京メトロ有楽町線・副都心線「要町」駅から徒歩約6分

コアネットの目

「共通語」として英語を使う！ 受け入れ留学生との生活も充実 ▶ 中学生の学びの集大成として中3全員がオーストラリアの研修に参加する一連の学習プログラム「JFGLP」が特徴的な同校だが、留学生の受け入れも積極的に行っている。時には英語を母語としない留学生も受け入れるが、「コミュニケーション」の手段としての英語を活かせる機会が充実している。

西武学園文理中学・高等学校

Homepage



海外へ羽ばたく意欲を育む 中2からのグローバルコース

from the School

伊藤邦義校長



放課後や昼休み、ALTとの英語のおしゃべりが楽しみ。そんな生徒が多い学校です。



上／清流、入間川沿いに立つ英国風のモダンなキャンパス。

左／外国人英語講師との楽しい英語の授業。



左／オンライン英会話の授業。年間約30回程度、オンラインでセブ島の語学学校の先生からレッスンを受ける。
下／セブ島での3週間のマンツーマンレッスンの様子。英語力をアップさせる絶好のチャンスになる。



右／毎年行われるローマ教皇との謁見式後、教皇と一緒に記念撮影。

左／中3時に全員参加のイタリア研修。ピサの斜塔前にてクラスごとに記念撮影。



英国のパブリックスクールの教育を模範とし、「国際社会で活躍する次代のエリート育成」を教育目標に掲げる共学一貫校。創立以来、グローバル教育に力を注いでいるが、中2から選択できるグローバルコースが今、注目されている。

「英語4技能をバランスよく強化するためのコースです。新設した一昨年度の第1期生が学年の約55%、2期生が約60%、3期生は約65%と、年々選択する生徒が増えています」と伊藤邦義校長。

同校の場合、入試で中1から、特別選抜クラスと中高一貫クラスに分かれるが、どちらのクラスの生徒も2年生進級時にグローバルコースを選択できる。

「海外の人とコミュニケーションをとれる力を、中学のうちからしっかりと身に付けさせたいという保護者の意向も強いですね。アンケート調査では本校への期待として、英語教育と国際感覚を養える取り組みがトップを占めています」

同コースの英語の授業は、週7コマ。そのうち2コマは、同校に6人いるALT（外国語指導助手）による英会話、さらに2コマをオンライン英会話に当てている。セブ島語学研修（中2）、イタリア研修（中3）、ニュージーランド現地校へのタム留学（中3、高2の希望者）など、海外研修プログラムも多彩だ。

同校への期待のトップは 英語力と国際感覚の醸成

「オンライン英会話はマンツーマンで、約3週間のセブ島語学研修では、普段のオンライン授業で顔なじみの講師が現地でも指導します。それぞれの生徒のレベルに合わせて対応してくれるので、英語で話すことに対する抵抗がなくなりますね」

その楽しい経験が自主性にもつながる。セブ島へ行った生徒のなかからもう一度行きたいという要望が出て、中3の15名が再びセブ島へ。未知の世界だった海外が、そんなふうに身近な学びの場になっていく。

また、そんな先輩たちの体験を聞き、2年生進級時に自発的にグローバルコースを選ぶ生徒も多いという。

「中2のセブ島、中3のイタリア、それぞれの海外研修に照準を合わせて英語の授業を組み立てています。その結果、グローバルコースの1期生は、104名のうち60名が英検準2級以上を取得しました」

海外大学への進学を志望する生徒も増えているという。同校には、海外へ飛び立つための基盤づくりをする環境が整えられている。

School Data

〒350-1336
埼玉県狭山市柏原新田311-1
☎04-2954-4080
<https://www.bunri-s.ed.jp/>

- 創立 1981年
- 交通 西武新宿線「新狭山」駅、JR埼京線・東武東上線「川越」駅、JR八高線・西武池袋線「東飯能」駅、西武池袋線「稲荷山公園」駅、東武東上線「鶴ヶ島」駅の各駅からスクールバスが運行

コアネットの目

ICTをツールとして成長するための礎を築く▶1人1台端末の環境を整備している同校では、休校期間中もオンラインで生徒への対応を行っている。個別対応を行う環境を整えているのは、それ以上に大切にしているのは教員・生徒、生徒同士の「信頼関係」。多感で大きく成長する中高時代に人間関係の土台をつくり上げる。

松蔭中学校・高等学校

Homepage



「使える英語」を身に付けた 世界に誇れる女性を育成



from the School

浅井宣光校長

語学を学び、それを使えるようになることが、生徒に大きな自信を与えてくれます。



上／インターネットを活用して一人ひとりの生徒がリスニング、スピーキングに取り組むICT English。



左／制服に憧れて入学する生徒も多い。特に爽やかな夏服は人気がある。



上／中3～高2の希望者が参加するニュージーランドの姉妹校「セント・ピーターズ・スクール」での夏季研修。

右／松蔭には4人のネイティブ教員があり、英会話の授業は、1人のネイティブ教員に対して生徒約10人で実施。



セブ島で行う海外研修。



今年度からいよいよ始まる 新カリキュラムに注目

1892年の創立当初から英語教育に取り組み、「英語の松蔭」として評価を得てきた。その原点に回帰し、2020年度からは新時代の学びを加えた二つのストリームが始まる。中学は「ディベロプメンタル・ストリーム（DS）」と、英語入試で合格した生徒のみが所属する「グローバル・ストリーム（GS）」。

「語学習得で得た自信は、生きることへの積極性につながります。それが英語に特化した理由です」と改革を進める浅井宣光校長。

DSは6年間で「使える英語」を身に付ける。ICT Englishとは「話す」ことに比重を置き、オンラインによる外国人との英会話やAIによるスピーキングに取り組む。主観ではなく、AIが発音や表現を診断し、英語力を総合的に評価するのが特徴だ。

「週2回のオーラルの授業は、1人のネイティブ教師に対して生徒は10人弱で、一人ひとりのレベルに合わせて進めます」（英語科・篠原弘樹先生）。また英語力を高めるために国語力も欠かせない。そのため「国語探求」という科目を設け、論理的な考え方や表現を学ぶ。

GSはICT Englishの授業が週5日行われ、オンライン英会話では中1の段階から毎日25分、外国人と英語で話す。ユニークなのは、対話相手が英語母語話者ではなく、世界中にいる英語ができる外国人であること。「これは英語を母語としない国のさまざまな

School Data

〒657-0805
兵庫県神戸市灘区青谷町3-4-47
☎078-861-1105
<http://www.shoin-jhs.ac.jp/>

- 創立 1892年
- 交通 ●阪急神戸線「王子公園」駅から徒歩15分
- JR神戸線「灘」駅から徒歩18分
- 阪神本線「岩屋」駅から徒歩20分

アクセントに慣れるため。同時に言語学習を異文化理解のきっかけにすることで、グローバル社会に適応できる力が身に付きます」（篠原先生）。土曜日には、聖ミカエル国際学校の先生によるオールイングリッシュの探究型授業も用意されている。

同校では「Blue Earth Project」を立ち上げ、10年以上取り組んできた。これは環境問題についてワールドワークを行い、生徒が学びながら社会を変えていくことを目指す活動で、今や全国に広がっている。プロジェクトに参加した生徒が、難関私大にAO入試で合格するなど評価も高く、プロジェクトを通して見えるほど活発になった生徒もいる。今後は内容を発展させ、SDGsの学びやPBLにつなげていく。

松蔭のスクールモットー「Open Heart Open Mind」は、「心を開いて、思いを自由に」という意味だ。使える英語を身に付け、世界の多様性に対して心を開き、先入観や偏見から思いを自由にする。この精神が息づく彼女たちは、これからの時代、世界のどこでも前向きに生きていけるだろう。

コアネットの目

2つのストリームで看板の英語教育がさらに充実 ▶ キリスト教主義に基づく人間教育と英語教育を柱とする同校は、神戸では誰もが知る伝統ある女子校。新たにスタートした2つのストリームには、神戸ならではの多彩な教育プログラムがちりばめられている。「使える英語」を身に付けた卒業生の活躍が今から楽しみだ。

「教える」から
「学び」への転換

デジタルテクノロジーで変わる 教育の本質



社会のあり方が大きく変わり、価値観が多様化した社会のなかで、教育の現場にもデジタルテクノロジーという大きな変革の波が押し寄せています。デジタル技術を活用した教育の未来とは、どのようなものなのでしょうか。2018年に『EdTechが変える教育の未来』を著した佐藤昌宏さんに、コアネット総合教育研究所の川畑浩之さんがお話をうかがいました。なお、このインタビューは新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の発出後、オンラインで行われました。

教育にイノベーションを起こす デジタルテクノロジー

川畑 佐藤先生はデジタルハリウッド大学（以下、DHU）大学院の専任教授として研究室「エフエクトイブ・ラーニング・ラボ」を主宰し、早くから「EdTech」の必要性を唱えてこられた第一人者です。一般的にはまだ「EdTech」という言葉はなじみがありませんので、まず先生の研究活動を含めてご説明いただきたいと思います。

佐藤 「EdTech」は、Education×Technologyを表す造語で、デジタルテクノロジーを活用して、幼児教育から生涯教育まで幅広い教育領域に変革を起こす取り組みのことを指します。2010年ごろからシリコンバ

レーでこの言葉が使われだし、アメリカや中国など多くの国がEdTechによって教育のあり方を変革させています。

DHUにおける私のラボも「デジタルテクノロジーを活用して新しい教育を創る」ことを目的に09年にスタートしました。DHUの大学院は、もともと研究成果をいかに社会実装させるかを重視しており、教員もほとんどが実務家教員です。ここはアイデアをビジネス化するための実験、試行錯誤を学ぶラボといえます。

川畑 院生にはどんな人たちがいますか。

佐藤 元教員の方、中国・韓国・ネパールの留学生、あるいはギネスホルダーのプログラタリストなど、さまざまなバックボーンを持つ人たちが、さまざまな視点からEdT



佐藤昌宏さん
Sato Masahiro

デジタルハリウッド大学
大学院専任教授

1992年日本電信電話株式会社入社。2002年デジタルハリウッド株式会社執行役員に就任し、日本初の株式会社立専門職大学院であるデジタルハリウッド大学大学院の設置を経験。09年より同大学院専任教授として、EdTechの研究実践と学生指導にあたる。17年には(一社)教育イノベーション協議会を設立し、代表理事に就任。経産省「未来の教室とEdTech研究会」座長代理ほか、政府の会議委員を多数歴任。

echに注目してラボに入ってきました。高2の聴講生もいますよ。

コロナ危機で早まる 教育のデジタル化

川畑 19年末には文科省による「GIGAスクール構想」(注)が発表され、佐藤先生をはじめとする識者の方々が提唱していながら進んでこなかった日本の教育現場が、一気に変わるのか!?と感じています。

佐藤 そうですね。EdTechによる教育の革新は、この1〜2年でものすごいスピードで動きはじめました。「GIGAスクール構想」の初年度予算は2318億円で、23年までに約4000億円かけて学校のネットワーク環境や、1人1台のデバイスなどが整備される予定です。

川畑 まして今年、コロナ危機が起きたことにより、デジタルテクノロジーの必要性は待ったなしになりました。

佐藤 学習ツールと校務のクラウド化、さらに家庭のインターネット環境まで整える方向で進んでいます。ただ、今はまだ第1ステップ。インフラをどう整えるかという段階で、EdTechによる教育の本質的変革はこれからです。AIとかブロックチェーンなど先端

技術の使い方を含め、テクノロジーが教育においてどういう役割を果たすかを見据えていかなければなりません。

教育の主体が 学ば側に変わる

川畑 EdTechによって「教育の本質」が変わる。そのポイントはどこにありますか。

佐藤 端的に言えば、ゲームチェンジが起これてしまうということです。

日本の教育制度は明治以降100年間変わっていないといわれ、学びたければ学校に行って教育を受けるしかなかった。「教育」という言葉の主語は「教える側」、教員が生徒を教え育むこと。ところが、今はインターネットにつながったデバイスがあれば、「学習する側」が自ら学べます。いくらでも知識をインプットでき、知的欲求を満たせます。つまり、EdTech以後の未来では、「教育」が「学び」に変わり、主語が交代するのです。では、学校や教師がいらないかというところではなく、知識を知恵に変えていくためには、先生と一緒に学び合う人がいなければなりません。学校は、そういう場として変わっていく、それがEdTechによる本質的変革です。

注:

GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想

Society5.0^{*}社会を生きる子供たちのために、全国の義務教育現場で整備が遅れているICT環境を用意する構想。今年度中に、希望するすべての小・中・高等学校、特別支援学校の校内LANの整備費用の2分の1を補助する。1人1台の端末は23年度までに実現する予定で、1人当たり最大4.5万円を補助する。また学習ツールと校務をクラウド化し、教員の業務効率化・負担軽減を目指す。

^{*}Society5.0とは、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会課題の解決を両立する、人間中心の社会。ちなみに狩猟社会がSociety1.0、農耕社会がSociety2.0、工業社会がSociety3.0、情報社会がSociety4.0とされる。

学びのSTEAM化 個別最適化とは?

川畑 今後、学校や教員はどういう方向に向かっていくとお考えですか。

佐藤 「未来の教室」のビジョンとして、「学びのSTEAM化」「学びの自立化・個別最適化」「新しい学習基盤づくり」の3点を打ち出しています。

学習基盤は、GIGAスクール構想で具体化していきますが、今後は「STEAM」と「個別最適化」がポイントになります。

STEAMはSTEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に「A」が加わったものです。STEMは理系的思考の強化ということですが、すでにプログラミングが必修化されています。そこに「A」が入ってくるわけですが、これをArts (芸術、デザイン) ととらえる研究者もいれば、AHS (リベラルアーツ／自然科学・社会科学・人文科学の学際的学び) とす

る人もいます。

私はリベラルアーツと解釈していますが、リベラルアーツを実際に日本の教育現場でどう展開するかは、難しい問題を含みますね。

私は個人的に、あえて日本語に意識して「真善美」と考えていますが、何が正しいと判断するのか、何を美しいと感じるかという心の部分。定量化できるテクノロジーに、定量化できない人間の心の部分を組み合わせることで、これからの時代の課題発見・解決に必要な力が育まれていくのではないかと思っています。

また「個別最適化」とは、一人ひとりの学びのペース、得意・不得意に合わせて学習計画がカスタマイズされることを意味します。学習履歴が記録されたマイページを持つことで、落ちこぼれも吹きこぼれもなくなるでしょう。

さらに、ここに余裕が生まれれば、インプットだけでなくアウトプット型の勉強に変えていける。知識を知恵に変えていくフェーズというのが出てくる。これがまさに求めるところで、一斉授業では不可能だったことが、デジタルテクノロジーを活用することで実現できるわけです。

川畑 コロナ危機下で、各学校ではEdTech



川畑浩之さん
Kawabata Hiroyuki

コアネット教育総合研究所副所長

2005年同研究所に入所。07年より主任研究員として、数多くの学校改革支援プロジェクトを手掛けている。教員対象の研修やセミナーなど多数開催。

chについて一気に学ぼうとしています。授業の動画配信なども一生懸命始めています。

佐藤 先生たちは、本来、学びたい人たちがすよ。ただ忙しさなどで、できない状態になっていた。今度のことでやむを得ずデジタルテクノロジーに触れることになったとしても、いろいろな気づきが得られるのではと期待しています。

社会の多様化に合わせ 教育変革も進む

川畑 まさに先生のおっしゃるゲームチェンジが起きつつあるとして、では子供を持つ親は、子供の学びに対してどう考えたいのか。学校選択などを含めて親の立場として、この問題をどうとらえたいのでしょうか。

佐藤 難しく考える必要はありません。保護者の皆さんが勤務されている会社や仕事場で、電子メールを使っていないところはないですよ。社会のIT化が進み、産業構造が劇的に変わってきたなか、学校だけがまったく変わってこなかった。それが、ようやく社会に合わせて動き出したということです。

ただ、会社によってIT化の進行に差があるように、私立はもちろん、公立学校にも大きな違いがあります。EdTech自体を阻害

する最大の要因は、人間の既成概念です。私立は、EdTechを強く意識している学校が増えてきていますが、それは偏差値とは関係ない問題であり、よく見ていったほうがよい部分でしょう。

親の側としては、社会変化を目の当たりにしているからこそ、子供の未来に不安がある。これまではその不安の解消先に、受験の競争に勝つということがあったと思うのですが、それは一つの物差しにすぎず、今はもっと多様な物差しで測るべきときが来たのだと思っています。

川畑 親の立場としては、社会構造の変化はわかっているけれど、一方でこれまでの教育に対する既成概念もはずせないところがあるかもしれません。

佐藤 今は、子供の得意な領域をいかに伸ばすかという時代になってきたと思います。社会が多様化し、変わってきているので、社会と教育の接合点である受験制度も変わってくるし、大学も変わってきます。

川畑 今までの日本の教育というのは、よくも悪くも子供たちを枠にはめて安心してきたところがありますが、その枠をはずすことを親も覚悟しなければいけないことです。ね。しかも、その教育変革は、コロナ危機によって思っている以上のスピードで進むと。

佐藤 この難局をあえてチャンスとし、EdTechが進めば、子供たちが試行錯誤しながら学ぶ時間がたつぷりとれる教育体系がつかれると思っています。

川畑 親も教師も、子供の学びへの意欲、学ぶことで広がる可能性を信じられないといけないですね。本日はありがとうございました。

三田国際学園中学校・高等学校

Homepage



先の見えない時代だからこそ
求められる「世界標準」の教育



from the School

大橋清貫学園長

クリティカルシンキング、創造的破壊を繰り返すことで、本物の学力が身に付きます。



上/世田谷区の閑静な住宅街に立つ校舎。駅から徒歩5分という通学のしやすさも魅力だ。



左/今井 誠教頭。

「相互通行型授業」が三田国際学園の教育の土台にある。教員からトリガーアクションが投げ掛けられると生徒たちは積極的に発言し、疑問→仮説→検証→結論と進む。この過程で論理的思考が身に付く。

「相互通行型授業」が「考える力」を育む

6年前、従来型の学校教育から「世界標準」の教育へと舵を切った三田国際学園中学校・高等学校。当初から多くの受験生を集め、今年も5クラス募集のところ1クラス多い6クラス編成になるという。

「社会の第一線で活躍されている保護者の皆さんは、これからの時代に必要な力とは何かをよくご存じです。だからこそ、6年間でどれだけ、その力が身に付くかに関心があり、本校の教育内容への期待の高さを感じます」と大橋清貫学園長。同校が考える「世界標準」の教育の最大の狙いは、自分で「考える力」の醸成だ。その土台となるのが、「相互通行型授業」と呼ぶ三田国際スタイルのアクティブラーニングだ。

トリガーアクションに始まり、疑問→仮説→検証（グループディスカッション）→結論（プレゼンテーション）と論理的思考のプロセスをたどっていく授業形式。

「常にクリティカルに考えることを要求し、生徒たちの知的好奇心を掘り起こしていく。この相互通行型授業を全教科で展開しているのが本校の教育の柱。そのために教員の研修にも力を入れています」

各教科の教員同士は常に議論を重ね、効果的な授業を目指す。主要科目については、難関国公立大の2次試験内容を踏まえたクエストを設定することも意識しており、大学

受験を最終目的化せず学びの過程として活かす姿勢が表れている。

得意を知り、深い学びを追究する三つのクラス

三田国際学園が考える「世界標準」の教育を支えるのは、考える力、英語、サイエンスリテラシー、コミュニケーション、ICTリテラシーの能力だ。これらの能力をしっかりと身に付け、得意な分野・関心のある分野をさらに伸ばすために、中学では「本科クラス」「インターナショナルクラス」「MSTクラス」が設定されている。

本科クラスは、主体性・創造性を培う教育に重点が置かれ、中2・中3の2年間で関心のあるテーマを探究する「基礎ゼミナール」が最大の特徴。人文・社会科学系から自然科学系まで、10余りの講座から自分が所属したいところを選び、情報収集、資料の見方、図書館の活用など専門的な研究手法を学ぶ。その後、個々にテーマを決定し、実験やフィールドワークに入り、論文を作成して発表、紀要にまとめる。ほとんど大学のゼミと変わらない形。大学レベルの研究内容に踏み込む生徒もいるが、興味のあることを好きにだけ学べるよう教員が支えるという。

インターナショナルクラスは異文化理解やグローバル意識を高く持つクラス。帰国生や英語力のある生徒と初学の生徒が混在し、英語の習熟度別に授業を編成。習熟度の高いクラスの英語授業は、ネイティブスピ



中1は学園祭で「自分自身」についてプレゼンテーションを行う。これまでの自分自身を振り返り、学校生活における目標の達成や将来の夢の実現に向けたロードマップを語る。



上／インターナショナルクラスでは副担任をネイティブの教員が務める。日々の学校生活のなかで異文化を理解する姿勢が育まれる。右／試験前の対策講座や継続的な講習など、検定試験へのサポートも充実。



上／メディカルサイエンステクノロジークラスでは、実験→データ→発表という学びのサイクルを身に付ける。理論と実践の双方向からのアプローチが、物事を客観的にとらえる姿勢を養う。左／情報を探したり資料を作成したりするためにタブレットは欠かせない。ICTを活用するスキルやリスク管理を学び、ICTリテラシーを身に付ける。



「世界標準」の学びの先に 広がる未来

こうした教育環境の成果の一つとして、毎年の受賞歴にも目を奪われ

「MST（メディカルサイエンステクノロジー）クラスは、中高6年を通じてサイエンスマインドを鍛え、研究者・医療者としての理想を描くクラス。文系教科にも、世界の諸問題、生命倫理、科学史などの視点を付加。相互通行型授業に加え、「サイエンスリテラシー」「基礎研究α」といった独自プログラムによって、実験→データ→発表という学びのサイクルを身に付けていく。理化学研究所の研究者や大学教授など、最先端で活躍している研究者が授業を受け持つことも同クラスの特長だ。探究心をかき立てられた生徒たちのために、実験室（サイエンスラボ、カルチャーラボ）は朝から下校時刻まで開放。休み時間にも放課後にも目を輝かせて実験を続ける生徒の姿が見られるという。

「カーの教員によるオールイングリッシュ。ネイティブスピーカーの教員から、数学・理科・社会の授業を英語で受けることも可能だ。一方、スタンダードクラスはネイティブスピーカーの教員主体のチームティーチングで4技能をバランスよく学び、短期間で英語力のレベルアップを図っていく。年度ごとのテストで習熟度の高いクラスに上がることもでき、いずれのクラスでスタートしても、海外大学進学を見据えた学力をつけることができる。

2019年度は「つくばサイエンスエッジ2019」において英語ポスターセッション第1位となり、△グローバルリンクシンガポール△の代表出場権を獲得。研究テーマは「ジャイロミル型風車の設計・製作」。評価を行っていた際に発見した、この型の風車の弱点ならびにその解決策へのアプローチに関する研究。教員も関連論文を読み、共に学んでいたという。専門性の高さに驚くが、「当校の教育は、こうした受賞や大学合格を目的にしたものではない。将来にわたって自分で課題を発見し解決する、自律した学習者になること。その素地を磨き上げる6年間を過ごしてほしい」と今井誠教頭は強調する。

とはいえやはり気になる進路だが、高校入学3期生が卒業した今年、すでに海外名門大学への進学が目立った。学びたい先生がその大学にいるから、ダブルディグリーが取れるからなど、確固とした目的を持ち進路を選び取る三田国際の生徒たち。中学入学1期生が卒業する来年以降、ますます目が離せない。

School Data

〒158-0097
東京都世田谷区用賀2-16-1
☎03-3707-5676
<http://www.mita-is.ed.jp/>
●創立 1902年
●交通 東急田園都市線「用賀」駅から徒歩5分

コアネットの目

常に考える姿勢、「貢献」する姿勢が部活動でも発揮されている▶昨年はダンス部が全国優勝、吹奏楽部が金賞受賞の快挙を成し遂げた。週3日の限られた活動の中でも、自分の役割や貢献方法を生徒一人ひとりが考え、実行した成果といえる。相互通行型授業で身に付いた、常に考え、意見を発信する姿勢はさまざまな場面で発揮され、生徒たちの活躍の場を広げてくれることだろう。

大宮開成中学・高等学校

Homepage



科学する心を多彩な化学実験で
一貫クラスならではの理科教育

from the School

松崎慶喜教頭



素直で節度があり、知識を吸収しようという意欲の高い生徒が多い学校です。



左／すべての教科に通じる科学的な思考力を養うために、中3で実験に特化した「化学実験」の授業がある。

下／中1から高1まで、学年ごとにテーマを決め、グループで探究学習を行う。年度末のプレゼン大会「開成文化週間」で発表する。



年度初めに実施される中1と高2の合同合宿。「チームビルディング」のコンセプトの下、高2の生徒主体で学校生活をテーマにさまざまな活動を行う。



理科担当の鈴木真也先生。



この10年間に東日本で、難関大学の合格実績を最も伸ばした学校と評される。2020年度も、東大1名を含む国公立大学の現役合格者は121名、早慶上理は160名、GMARCHは456名を数えた。

「進学実績が目立ちますが、受験偏重の学校ではありません。むしろ探究心を育む教育が、結果として実績につながっているのだと思います」と松崎慶喜教頭は言う。

例えば中1から高1で実施されるプレゼンテーション教育は、班ごとに決めたテーマに1年をかけ、掘り下げて学ぶ探究型学習だ。この4年間で、自ら学ぶ素養と表現力が身に付く。また同校は近年、理科教育にも力を入れている。象徴的なのが中3で行う化学実験の授業だ。担当する鈴木真也先生は言う。

「現行の教育課程では、中高で学ぶ化学の範囲が広いため、修了するのが厳しく、実験は『時間が空けばやる』という学校が多いんです」

しかし、実験授業は科学的な視点、科学的かつ論理的な考察法、すなわち考える力を養ううえで重要だ。

「本校の場合、中学理科の学習内容は中2で修了し、化学では中3で高1の化学基礎を先取りして学びます。通常の授業でも実験は取り入れています。その先取り部分で化学実験の授業をやります。これができるのは中高一貫クラスの強みです」鈴木

年間30種類の実験授業
中3で知る科学の楽しさ

先生

化学実験の授業は、週1回で2時間を充てる。生徒たちは仮説を立て、実験によりそれを検証する。取り上げる実験は年間30種類に及ぶ。

難関大学の理系入試では、理科2科目の選択で化学と物理、化学と生物を選ぶケースが多い。さらに新共通テストでは、実験に基づき思考力を見る出題傾向が強いという。

「受験勉強では、丸暗記しなければならぬ部分もありますが、覚えるにしても興味・関心があるかないかで意欲に違いが出ます」と鈴木先生。そして「手順通りにやったつもりでも、時には失敗があるのも実験のいいところ」だとも言う。

「仮説を立てても、そうならなければ『なぜか』を考えるよい機会です。実験の結果を覚えることより、プロセスについて多角的に考えることのほうが大切です。それはクリティカルシンキング（批判的思考）の体験にもなります」（鈴木先生）

科学的アプローチは、どの教科にも通じる手法。それを中3の段階でたっぷり時間をかけ、体験できるのは実に魅力的だ。

School Data

〒330-8567
埼玉県さいたま市大宮区
堀の内町1-615
☎048-641-7161
<http://www.omiyakaisei.jp/>
●創立 1959年
●交通 JR「大宮」駅東口から
国際興行バスで「天沼町」下車すぐ

コアネットの目

延べ3972名志願者を集め、3年連続東大合格者輩出の実績▶「愛・知・和」の校訓でも表現されている通り、調和のとれた人間教育が根底にある。物事を柔軟に考えられる思考を育むため、理科教育では、生徒に時間をかけて探索させ、あえて教員は教え込まないことを意識しているという。生徒の知的な好奇心を大切に、教育内容をさらに充実させていく大宮開成の躍進に今後も期待だ。

成城中学校・成城高等学校

Homepage



中高6年間のゴールを見据えた新シラバスで男子が持つポテンシャル能力を伸ばす

from the School



栗原卯田子校長

目標を持つと伸びるのが男子。
世界で活躍できる「人間力」を育てます。



上／中1からスタートする「数学統計」の授業。統計学の基礎を学び、4年間で情報リテラシーを身に付ける。

左／世界のトップ大学の学生を招いた自己確立のための5日間の研修、「エンパワメント・プログラム」。議論、企画、発表をすべて英語で行う。



右／オーストラリア・グローバルリーダー研修では、さまざまなミッションに立ち向かい、リーダーシップを養う。

左／文武両道で部活動も盛んだ。高校のバレーボール部は2年連続、関東大会出場を果たす。



臨海学校は90年以上の歴史がある伝統行事。中1を指導、サポートするのは高2の精鋭の指導員たちだ。

中高完全一貫校化へ向けてカリキュラム改編が進行中

創立135年の歴史を持つ男子教育の伝統校成城は、2019年度から高校募集を停止し、中高完全一貫校化に踏み出した。

これまで高2で文系・理系、高3ではさらにそれぞれで国公立・私立で分ける4コース制を、高3でも文系・理系の2コース制に変更。前倒しで今年度の高2から実施し、多様化する大学入試方式に対応して、文理共通の数学科目を設置した。その狙いについて、栗原卯田子校長は次のように説明する。

「早稲田大学政経学部をはじめ、文系の学部であっても、数学を入試の必須とする大学が増えつつあります。そこで本校では、大きく文系・理系の2コースに編成を変え、さらに文理関係なく数学を武器にできるよう、今年度より習熟度に合った選択講座を設けて、文理混合の授業を開始しています」

ほかにも中高完全一貫校のメリットを最大限に活かした、新たなシラバスを完成させる取り組みが進められている。総合的学習の一環として、中1を対象に今年度から始まった「数学統計」の授業もそのひとつだ。「数学と情報のコラボ授業で、これからのビッグデータ時代に対応できる統計学の基礎を養成します。本校のコンピュータリウムを使い、データ処理やプログラミングなどを、自分でできるようにすることが目標。」

高1をゴールに見据え、情報リテラシーを身に付けさせます」

一方、「成城版」と銘打って取り組んできた、独自路線のグローバル教育も成果をあげている。カリフォルニア大学から学生を招き、中3、高2の希望者を対象に5日間（1日6時間）、議論企画・発表をオンライングリッシュで行う「エンパワメント・プログラム」やオーストラリア・クイーンズランド州の学校と連携して行う「グローバルリーダー研修」などに刺激を受け、海外の大学に進学が決まった生徒も複数名いる。「英検準会場実施」にて全校生徒が英検を受検しているが、近年は準1級にチャレンジする生徒が増え、昨年度は2桁合格の実績をあげた。「目標があると伸びるのが男子。情報技術も英語も、他者との関わりを大切にしながら、自己実現を達成するために不可欠なコミュニケーションツールだと、私は定義しています」と栗原校長。

新しい取り組みもまた、成城の校章に象徴される「知・仁・勇」を兼ね備えた「人間力」を養成する、伝統的男子教育に根ざしているものだ。

School Data

〒162-8670
東京都新宿区原町3-87
☎03-3341-6141
<http://www.seijogakko.ed.jp/>

- 創立 1885年
- 交通 都営大江戸線「牛込柳町」駅西口から徒歩約1分

Homepage



東京都市大学付属中学校・高等学校

帰国生が引き起こす「化学反応」 世界を身近に感じる中高の6年間

from the School



国際部主幹 松尾浩二先生

海外研修、中期修了論文など多様な経験を通し、早期に将来の青写真を描いてほしい。



中3の希望者対象の「マレーシア異文化体験プログラム」。クアラルンプール郊外の村で、貴重な伝統文化や自然を体験する。



現地校の授業に出席する「ニュージーランド語学研修」は、高1に実施する。



上／中3で取り組みキャリア教育。夏休みには企業研修が行われる。右／中学3年間で、約60テーマに取り組み科学実験の授業。レポートを作成し、分析力・思考力を育む。



体系化された海外研修で 国際人としての個を磨く

帰国生の受け入れを、積極的に進めてきた男子校である。2014年度の1期生はわずか19名だったが、近年は毎年40～50名の入学者があり、2019年度には中高の全学年に帰国生がいる状況になった。「学内のグローバル化」が狙いだったと、国際部主幹の松尾浩二先生は語る。

「さまざまな国から来る帰国生は、それぞれがその国の文化と情報をもたらしてくれます。そんな彼らが一般生と交わることによる『化学反応』に期待したのです」

帰国生の多くは英語を上手に話す、ほかの教科は一般生より多少劣る場合がある。一緒にいると、互いに弱い部分を補おうと教え合う。それがひとつの化学反応だ。

「もうひとつは、帰国生が暮らしていた国の生の情報です。例えば、生徒同士の会話をふと耳にしたとき、フィリピンに滞在していた生徒がドゥテルテ大統領の自国内での評判を詳しく説明していました。日本にいてはわからない、そんな話が帰国生と一般生の間で交わされるのです」

ものごとを一面的にとらえない、多様な視点が日常のなかで養われていく。これも同校のいう化学反応だ。こうした国際感覚に彩られた学内環境に加え、同校には体系化された海外研修プログラムがある。

中3夏休みの10日間のマレーシア異文化体験プログラム、中3の3学

School Data

〒157-8560

東京都世田谷区成城1-13-1

☎03-3415-0104(代)

https://www.tcu-jsh.ed.jp/

●創立 1951年

●交通 ●小田急線「成城学園前」駅から徒歩約10分

●東急田園都市線・大井町線「二子玉川」駅から、バスで約20分、「東京都市大学付属中高前」下車すぐ

期にはニュージーランド3カ月ターム留学、高1夏休みは3週間のニュージーランド語学研修。これらは希望者制となっている。そして高1の3月には、学年全員が参加する6泊8日のアメリカ西海岸研修旅行がある。注目されるのはその内容だ。

「この研修では、UCLAまたはカリフォルニア工科大学のキャンパスツアーや、現地日系企業の訪問、IT企業が集まるシリコンバレーのツアーなどが組まれています」(松尾先生)

世界トップクラスの大学の空気に触れ、日本の企業人の海外での活躍ぶりを目の当たりにし、ITの最新線を知る。この研修は、世界を視野に入れたキャリア教育も兼ねている。

「中3の3カ月ターム留学に参加した生徒は、見違えるように成長して帰ってきます。高1の西海岸研修は、将来の青写真を描くうえで、貴重な体験となるはずだ」と松尾先生。

世界を身近に感じて過ごす中高の6年間。同校が都内の男子校のなかで、高い人気を維持している理由がうかがえる。

コアネットの目

新大学入試への特別対応は必要なし。進路実績も好調▶豊富な科学実験レポートや弁論大会、中期修了論文など、思考力と表現力を磨き取り組むを重ねてきた同校。新大学入試への対応は十分といえる。今春の卒業生は、東大・京大・東工大・一橋大への複数人合格をはじめ、旧帝大や医学部医学科、難関私大に過去最多合格を記録。今後も多数の合格者が期待される。

共立女子中学高等学校

Homepage



英語教育とキャリア教育の両輪で 世界に羽ばたく将来像を描かせる



from the School

広報部主任 金井圭太郎先生

生徒がそれぞれに自分が活躍できる場所を見つけられるのは、大規模校だからこそです。



野菜ジュースからDNAを抽出する生物の実験。iPadを使って色の変化を確認。



上／礼法の授業で身に付ける基本動作や礼儀は、社会人になったとき真価を発揮する。右／教室の電子黒板に映像やデータを映すなど、タブレットはさまざまな教科で活用。



上／中1から外国人講師による、少人数の英会話の授業を実施。自宅ではオンライン英会話での学習も。左／感性を伸ばす実技科目にも独自のプログラムを実践している。自画像で自分を見つめる美術の授業。



広報部副主任で理科担当の桑子研先生。ICT活用を推進する。



国際交流部主任で英語科の石田大介先生。生徒と英語の接点を増やす。



たくさん経験の積める 環境が用意されている

130余年の歴史を持ち、3万6000人もの卒業生を輩出してきた伝統校。特徴の一つが、1学年の生徒数は約320名という規模の大きさだ。帰国生も均等に各クラスに配し、中1から高2まで毎年クラス替えを行う。多彩な個性と触れ合うなかで自然とコミュニケーション能力が磨かれ、それぞれの生徒が、自分が輝ける場所を見つけることができる。共立伝統の授業として特筆すべきなのが隔週で行う礼法だ。立礼、座礼といった基本動作から始まり、冠婚葬祭のしきたりまで学ぶ。広報部主任の金井圭太郎先生は「AIの時代、手を動かして体感することが重要性を増しています。グローバル社会のなかで、伝統を見直すことにも大きな意味があります」と説明する。

日本文化を大切にする一方で、目覚ましい進化を遂げているのが英語教育だ。学校生活のなかで日常的に英語に触れられるようにと設けられたランゲージスクエアには、放課後ネイティブ教員が常駐し、生徒たちは気軽に訪れて、英語で話す経験を積んでいる。

英語教育とキャリア教育を結びつける取り組みにも積極的だ。卒業生が勤めているアメリカメカバンクのバンク・オブ・アメリカの東京支店で行われるキャリア教育プログラムには、中1から高3の希望者（抽選）

が参加。オフィスツアーやプログラミング体験、株式トレーディングゲームなど、海外企業の雰囲気に触れ、大きな刺激を受けている。

中3から高2の希望者を対象に行っているのが、英字新聞プロジェクトだ。『Japan Times』の協力の下、記事の書き方や取材の仕方などの講義を受講。その後、生徒たちが実際に取材し、学校の魅力を紹介する英字新聞を作製する。

「これらの経験を通して、生徒たちは自身の将来像を思い描き、英語学習の意欲につながっていきます。留学・語学研修プログラムは、語学力や興味に合わせて7カ国10都市を用意していますが、参加する生徒たちに言っているのは『日ごろから日本のことを学んで、留学先で日本の紹介をしてもらうように』ということ。日本のことを深く理解したうえでグローバル教育を行いたい」と国際交流部主任の石田大介先生。日本の文化伝統を身に付けた、真の国際人の育成に期待が高まる。

School Data

〒101-8433
東京都千代田区一ツ橋2-2-1
☎03-3237-2744(代)
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/chukou/>

- 創立 1886年
- 交通
 - 東京メトロ半蔵門線・都営三田線・都営新宿線「神保町」駅から徒歩3分
 - 東京メトロ東西線「竹橋」駅から徒歩5分
 - JR「水道橋」駅・「御茶ノ水」駅から徒歩15分

コアネットの目

都心のど真ん中という立地を活かした「本物に触れる」体験▶同校では「本物」に触れる機会も豊富だ。アクセス至便な都心の立地を活かして企業や裁判所、美術館などに出かけることもあれば、歌人や小説家といったゲストを校内に招いて特別授業をしてもらうこともあるそう。さまざまな「本物」との出会いが生徒の刺激となり、興味関心を高めている。

Homepage



昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校

社会で力強く生き抜くために チャレンジを続ける女性を育成

from the School

粕谷直彦中学校教頭



さまざまな分野に果敢にチャレンジする生徒が育っています。
自の力をどんどん試してほしい。



左/「スーパーサイエンスコース」ではクラウドサービスの学習支援ツールを使用。自分のPCとプロジェクターをつないで、各自の考えをクラスで共有。

下左/理科の実験学習は大学の施設も活用して行われる。

下右/大学や企業と連携して研究を行う、高校のLABO活動。



上/ボストン研修(12日間)は中2全員が参加する。準備研究から帰国後のまとめ、発表まで長期グローバルプログラムだ。



右/館山市にある海浜学寮で、海辺ならではの体験も。

幅広い選択肢のなかから 自分の進む道を見つける

「世の光となろう」の建学精神の下、創立以来100年、一歩進んだ女子教育を進めてきた昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校。こども園から大学院まであるキャンパスには、ブリティッシュスクールやテンプル大学ジャパンキャンパスも擁する。さらに、米国ボストンにも大学キャンパスを持ち、海外研修の拠点となっている。

附属校ならではの恵まれた環境を活かし、一人ひとりが希望する未来を切り開けるよう2016年からコース制を導入している。確かな学力とグローバルマインドを身に付ける「本科コース」、海外大学進学も見据えた「グローバル留学コース」のほか、「スーパーサイエンスコース」は来年度より中1から設置、理数系教育にも一層力を入れていく。

「学校は、生徒たちが本来持っている能力を掘り起こし、思いきってチャレンジできる場でありたい。チャレンジし、うまくいかなかったら何度でもやり直す力を育むことが、今一番、教育に求められていることではないでしょうか。その意味で、さまざまな課外活動に積極的に取り組んでいます」と中学校教頭の粕谷直彦先生。大学・企業と連携して実施するLABO活動や、ボランティアを通して社会の課題に向き合うサイバスターニングなど独自のプログラムに多くの生徒が参加している。ま

た模擬国連やサイエンスキャッスル(中高生のための学会)など学外の活動でも目覚ましい成果をあげている。

同校が人気を集めているもう一つの要因は、進路選択の幅広さだ。昭和女子大の推薦を確保しながら、他大を受験できることはもちろん、近年は昭和女子大のダブルディグリー・プログラムへの関心も高まっている。これは、昭和女子大で3年、海外提携大で2年の計5年間で両方の学位を取得できる制度。同校独自の五修生(中高のカリキュラムを5年で修了し、高3時から昭和女子大で学び始める)を組み合わせると、卒業は同級生と同じになる。「他校にはない有利な進路選択でしょう。ダブルディグリーはグローバル人材として企業からも注目されています」と杉村真一朗入試広報部長。この形で卒業し活躍しているOGも多く、ロールモデルを間近に見られるのも歴史ある女子校の強みだろう。

School Data

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57
☎03-3411-5115(中高部代表)
<https://jhs.swu.ac.jp/>

●創立 1920年

●交通

- 東急田園都市線「三軒茶屋」駅から徒歩約7分
- 「渋谷」駅から下記方面行きバスを利用し、「昭和女子大」下車すぐ(上町・等々力・田園調布・弦巻営業所・二子玉川・高津営業所・成城学園・祖師谷大蔵・狛江・調布)
- 「目黒」駅・「祐天寺」駅から三軒茶屋行きバスを利用し、「三軒茶屋」下車、徒歩約7分
- 「下北沢」駅から駒沢陸橋行きバスを利用し、「三軒茶屋」下車、徒歩約7分

コアネットの目

意欲あふれる教育が多様な進路選択を実現させる人気校▶多様な進路選択ができることと、それを支えるハードとソフトの教育環境の充実で志願者を集める。ハードは施設・設備であり、ソフトは生徒の学びを促す意欲あふれる教職員だ。これまで中3から分かれていた理系のコースが、来年度より中学1年からのスタートになる。今後ますます注目されるだろう。

女子聖学院中学校高等学校

Homepage

ICT完備の「フューチャールーム」で
学びを共有する高度な授業を実践

from the School

ICTプロジェクト委員
数学科 川村明子先生本校は“Be a Messenger”、
語ることをもつ人を育てます。上/フューチャールームのホワイトボードを利用し
て、紙に要点をまとめ、貼り出しながら伝えるKP(紙
芝居プレゼンテーション)法の授業。

左/iPadを使って、プレゼン資料の作成方法を学ぶ。

右/スキットをドラマ
化する中1の英語授業。
iPadが活躍する。左/パワーポイントを
駆使した、中2の国語
科「聞く話す」のプレゼ
ンの様子。単語の暗記の仕方にも
ICTを活用。「Keynote」
を使って単語の意味を
イラスト化。それを発
表して、クラスメイト
と共有する。

特設ルームの完成で
ICT教育がパワーアップ

英単語からイメージした自作のイラストを掲げ、「この単語の意味を表す絵として」と、クラスメイトに発表する中1生徒の動画が、プロジェクターを配備した普通教室の黒板に映し出される。興味津々で聞いている聴衆から漏れる笑い声に、パッと顔を輝かせる発表者。ICTを活かして行われる、女子聖学院の英語の授業のひとつである。

「生徒一人ひとりがプレゼン用アプリで作成した、イラスト入りの英単語カードを発表し、みんなでそれを共有します。ビジュアルで表現することで、その単語の意味を本質的に理解できるんです」と説明するのは、数学科の川村明子先生。20〜40代の主要5教科の若手教員から成る、ICTプロジェクトチームの一人だ。

ICTの導入に積極的に取り組んできた同校は、昨年9月に「フューチャールーム」を開設した。正面と側面の壁の2面には、4基のプロジェクターとホワイトボードが配備され、正面は2画面表示の電子黒板機能も備わっているほか、36台（1クラス分）のiPadを接続できる情報通信システムも完備されている。

「ICTはあくまでもツール。最先端技術を活用して、授業の質を上げていくことが、導入の目的です。双方向による協働学習など、生徒の能動的な学びに対して、ICTをどう効果的に活用していくか、教師研修

School Data

〒114-8574
東京都北区中里3-12-2
☎03-3917-2277(代)
<https://www.joshiseigakuin.ed.jp/>

- 創立 1905年
- 交通 ●JR山手線「駒込」駅から徒歩約7分
- 東京メトロ南北線「駒込」駅から徒歩約8分
- JR京浜東北線「上中里」駅から徒歩約10分

会を開いて実践例をシェアし合っています」(川村先生)

ユニークな活用方法も、すでに実践されている。例えば数学では、グループワークで異なる関数問題に当たり、解答法を写真に収めて全員で共有した。

また、国語科が中2対象に行う「聞く話す」の授業では、10代の環境活動家であるグレタ・トゥーンベリさんが国連気候変動会議で行ったスピーチ映像を聴講したのち、問題意識をいかに他者と共有できるかをテーマに、パワーポイントを使つてのプレゼンテーションに取り組んだ。

「他者の考えを視覚的に共有することにより、さまざまな『気づき』が生じます。通常の授業では引つ込み思案な生徒の、思いがけない実力を発見することもあります。ICTの強みを、語る言葉で人とつながり、世界を知り、自分ができることを考える人材教育に役立てたいです」と川村先生。

女子聖学院の教育理念に裏打ちされたICT活用が、どのような成果を見せるのか、期待がかかる。

コアネットの目

「英語でも日本語でも、語ることをもつ人を育てる」教育 ▶ キリスト教教育に基づき、「自分の賜物(良き物)を他者のために活かす」という教育目標を掲げている。そのために、自分なら何をどのように語るのか、生徒自身が考え、自分の思いを自分のことばで発信する。それを英語でも日本語でも語ることをもつ人に育てるのが女子聖学院の教育だ。そして、2021年に向けてはICT教育も伝えるツールの1つとして力を入れていく。

駒込中学校・高等学校

Homepage



「一隅を照らす」教育で
変動する社会を生き抜く力を育む

from the School



本田 靖教頭

徳育・知育・体育を並進し
個性を伸ばして創造力を養う。
それが本校の教育方針です。



上/アクティブラーニングの授業に欠かせないICT。生徒が積極的にICTを使い主体的に学ぶ。
左/英語での発信力を養うための「英語スピーチコンテスト」。優秀者は、レシテーションコンテストへの参加資格を得る。

文化部のなかで一番人気がある自然科学部。レゴや実験、プログラミングなど好きなことがなんでもできる。



大きな行事のひとつ、中2で行う日光山研修。
自己を見つめる体験だ。



鎌倉散策は、歴史を学ぶ別荘自主研修。

「STEM&グローバル」
先進性の高い教育が魅力

天台宗の開祖・最澄の言葉「一隅を照らす」を建学の精神に掲げる駒込学園は、江戸時代の学問所「勧学講院」をルーツに持つ仏教系の伝統校。「一人ひとりの生徒の才能をすくい上げ、個性を発揮しながら社会に貢献できる人材を育成する」という教育ポリシーを実現させるべく、さらに先進的な改革を進めている。

2018年に、高校の「国際教養」「理系先進」の2コースに直結する「国際先進コース」を中学に新設。また、昨年の中学入試から、特色ある二つの入試形式が追加された。プログラミングやアルゴリズム的思考力を問う「STEM入試」と、今日的な課題について、作文やイラストで自分の意見を表現させる「自己表現入試」だ。

「科目入試では測れない力や、ユニークな個性を持った子たちをすくいあげることが、狙いです。10年先、20年先の社会で必要されるであろう力です」と本田靖教頭は説明する。ちなみに同校で推進中のSTEM教育とは、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、数学 (Mathematics) の4分野を関連させ、実際の生活に应用させることを目指す新しい教育法。未来を見据えた教育改革の一環である。

駒込が力を入れる、サイエンス教育とグローバル教育は着実な成果をあげている。本田教頭が特に手応え

を実感しているのが、理科の授業で指導するサイエンスリテラシーが、部活動にも浸透していること。

「中学で人気の自然科学部には、ゲームのプログラミングを手掛けたり、レゴブロックのロボット大会に出場する部員もいます。再現性のあるプログラミングの構築には、修正点を他者に伝えたり、部員同士でアイデアを出し合うなど、対話力が不可欠ですが、それができています。自らの力で探究意欲を高めているのです。パソコン部と兼部する部員も少なくありません」

グローバル教育では、中学の希望者を対象にハワイやセブ島での語学研修を実施。また、「発信できる英語」を養う英会話授業の集大成として、全校参加の「英語スピーチコンテスト」を行う。優秀者は私学の代表生徒が集結する、ハイレベルなレシテーションコンテスト(駒込学園が会場)に出場し、同校の代表生徒は例年、優れた成績を取っている。

入試から授業まで特色に満ち、激動する社会を生き抜く力を、じつじつと養成してくれる学校だ。

School Data

〒113-0022
東京都文京区千駄木5-6-25
☎03-3828-4141
<https://www.komagome.ed.jp/>

- 創立 1682年
- 交通 ●東京メトロ南北線「本駒込」駅から徒歩約5分
- 東京メトロ千代田線「千駄木」駅から徒歩約7分
- 都営三田線「白山」駅から徒歩約7分

コアネットの目

時代にマッチした学校づくり▶生徒たちの意見を決して否定せず自分で考え行動させている。入学してくる生徒も以前と比べるといろいろなタイプの生徒が増えてきているなか、今後も生徒たちの意見を尊重し、生徒たちに考えさせることを重視している。このことが支持され、毎年受験者数を増やし続けている。

品川翔英中学校・高等学校

Homepage



校名も学習内容も大幅に刷新
学校一丸で教育改革に邁進する



from the School

柴田哲彦校長

意欲的に取り組む力、やり抜く力などの非認知能力を徹底的に伸ばしたい。



左／国際的視野を育む中2の海外修学旅行。2019年はマカオ、香港へ。



下左／修学旅行では現地校を訪問し、生徒同士で交流を行う。
下右／理数系にも力を入れており、生徒の興味を引き出す授業を展開。写真はプログラミングの授業。



上／共学化に伴い制服も一新。大変好評だ。



右／駅から徒歩6分という環境にあり、天然芝のグラウンド、冷暖房完備の体育館など施設も充実。

非認知能力を刺激し
無限の能力を伸ばす

80有余年の女子教育の歴史を持つ小野学園女子中学・高等学校が「品川翔英中学校・高等学校」へと学校名を変更。2020年度から男女共学となり、教育内容も大きく変革を遂げる。

その舵取りを担うのが、本年度着任した柴田哲彦校長だ。これまでにさまざまな学校改革を担い、民間企業でも活躍した幅広い経験と、20カ国に及ぶ海外学校視察を経て、大規模な学校刷新に取り組んでいる。

大きな改革の一つが担任制の見直しだ。学年ごとに教師がグループ制で担当。3者面談などは、生徒が教師を選ぶ形式で行う。テスト形式も大きく変更し、定期テストは廃止、代わりに小テストと単元テストを頻回に実施する。スモールステップで学習の定着度、理解度を確認し今後の学習に活かしていく。

さらに、中学生は木曜日の午後と土曜日を使い、ラーナースタイムと呼ぶ総合学習の時間を設ける。SDGsやグローバル分野のフィールドワーク、企業研修、オンライン英会話などが計画されており、社会を見せ、世の中に触れ、将来を考えるキャリア教育の一環ともなる。

評価方法として、近年注目されている新しい評価法「ルーブリック評価」を導入するのも話題だ。単元テストでは評価ができない協調性、やり抜く力、自己表現力などの非認知

能力を見える化。授業の前にそれらの項目を記した表を生徒に配布して各々が目標を確認。活動後に教師、自己、生徒同士で表に照らして達成度の評価を行うことで、やる気や能動性、学習意欲を引き出していく。

これらの改革に備えて、昨年度から外部の専門家を招いて教師の研修を重ね、教師の意識改革とスキルアップを図ってきた。

「新たになった校訓は、自主・創造・貢献です。何事にも自らすすんで行動し、自分で創造的に考え、世の中の役に立つ人間を育てたい。そのために、校訓に合致するいいものを外からどんどん取り入れ、フィールドワークなどを通して生徒の非認知能力を伸ばし、子供たちの持つ無限の能力を伸ばしていきたい。そして、進路を開くサポートをしていきたいのです」と柴田校長。

品川という好立地に加え、再来年度には校舎の建て替えの計画もあり、学習環境もさらに充実。これからの動きに目が離せない大注目の学校だ。

School Data

〒140-0015
東京都品川区西大井1-6-13
☎03-3774-1151
<http://shinagawa-shouei.ac.jp/>

- 創立 1932年
- 交通 ●JR横須賀線・JR総武線快速・JR湘南新宿ライン・相鉄線「西大井」駅から徒歩6分
●JR京浜東北線・りんかい線・東急大井町線「大井町」駅から徒歩12分

コアネットの目

社会とつながる環境を作り、将来をイメージできる教育を行う▶「世界で通用する人材」を育成するため、キャリア教育に力を入れている。有名私立大学の学生起業家や企業とのコラボレーション授業を行い、社会とつながる環境を生徒に提供することで、目指したい将来をイメージさせ、将来に向かっていくためには何をすればよいかを考える授業を行う。変革を進める同校の今後に注目だ。

青稜中学校・高等学校

Homepage



「トリプルC」が行動目標 ゼミ授業の新設で学びを深める



from the School

青田泰明校長

教師に相談や質問をする生徒で、いつも教員室は大にぎわい。それが青稜の校風です。



高2の修学旅行は、沖縄と、アウシュビッツを訪ねるドイツ・ポーランドとの選択になる。



自然活動体験やボランティア活動なども積極的に実施している。



上／25年ぶりに刷新された制服。デザイン性だけでなく、機能性も重視されている。左／学びのサイクルを習慣化させる、自学自習システム「Sラボ」。生徒一人ひとりの質問にチューターが対応してくれる。



楽しみながら五感を通して英語に親しむ「English Fun Program」。年に一度、2日間英語漬けになる。中学生全員が参加。

「学びの衝動」を引き出し 弛まず挑戦する感性を育む

建学の精神は「社会に貢献できる人間の育成」。この春、校長に就任した青田泰明先生は、それを具現化するための行動目標として「チャレンジ、チェンジ、コントリビューション（貢献）」の「トリプルC」を掲げる。「変化を恐れず」というより、むしろ変化を求めて挑戦する感性、そして社会に貢献する意識を常に持つて生きてほしい。そのために、本校を挑戦のプラットフォームにしようというと考えています」

この行動目標は、生徒たちへのみ向けられたものではない。教師も保護者もこれを共有する。「街の方々や企業、他校とも連携し、本校と本校のあるエリアを使って地域をも盛り立てていく。青稜をそんな場所にした」と新校長は抱負を語る。

この10年、歴代校長を補佐し、学校改革を進めてきた。特に力を入れてきたのは「学びの衝動を引き出す」ことだという。

例えばICTの導入により、生徒一人ひとりの習熟度に合わせた学習指導を行える環境を整えた。自学自習をサポートする中学生専用の自習室「Sラボ」の運用も、生徒の学習意欲の向上に成果をあげている。

「何よりも大きいのは、自ら調べたことを発表する調べ学習を増やしてきたことです。かつては社会と理科くらいでしたが、ほかの教科にも調べ学習を取り入れたことで、自ら学

ぶ姿勢がかなり定着しました」

そうした生徒たちの変化を受け、同校では今年度から、中学でゼミ授業を開始する。教科の授業内容から離れ、各担当教師が自分の得意な分野、好きなテーマを深く掘り下げる探究型の授業だ。気象学がテーマの「目指せ！お天気マニア」、数学パズルを取り上げる「生活と数学」など14講座が用意される。青田校長も、博報堂、リクルート、グリコなどの企業とコラボし、SDGsをテーマとする講座を担当する。

「これは教師にとつてのチャレンジ。面白くなければ学校ではない。いかにすれば、生徒に学びを楽しんでもらえるか。私はいつも、それを教師たちに求めています」

この春、25年ぶりに制服を刷新した。デザインは、有名ブランドとのコラボで知られる藤原ヒロシ氏だが、制服を手掛けるのはこれが初めて。「Challenge for change!」変化を求めるために挑戦しよう」という同校の精神は、この新制服とともにまた新たなフェーズへと進む。

School Data

〒142-8550

東京都品川区二葉1-6-6

☎03-3782-1502

https://www.seiryo-js.ed.jp/

●創立 1938年

●交通

- 東急大井町線「下神明」駅から徒歩約1分
- JR京浜東北線・りんかい線「大井町」駅から徒歩約7分
- JR横須賀線「西大井」駅から徒歩約10分

コアネットの目

挑戦が高める生徒たちの多様性▶多くの帰国生を受け入れる同校。上海・バンコク・シンガポール・台北・ヒューストンでの帰国生入試の実施や、入学した帰国生に対する教育をより手厚いものにするなど帰国生の定着が図られている。校内の多様性が高まることで、生徒たちはよりさまざまな刺激を受けることになる。今後の挑戦でさらに高まる多様性に注目。

帝京大学中学校・高等学校

Homepage



少人数制のきめ細かい指導が 努力して学び続ける姿勢を育てる

from the School



入試広報部主任 竹之内 毅先生

家族のような気持ちで生徒を育てる、とてもアットホームな学校です。



上/英語力を身に付け、国際的視野を広く持つためのプログラムが充実している。



左/朝講座の小テストを繰り返すことで、学習習慣を確立する。



生徒と教員の距離が近い。少人数だからこそ、生徒一人ひとりに寄り添うことができる。



学校の裏山は自然の宝庫だ。中1の人気体験授業、タケノコ掘り。



上/ニュージーランド語学研修は約3週間、ホームステイをしながら英語を学び、他文化を体験する。
右/アジア地域修学旅行では、台湾やベトナムなどを訪れ、現地の高校生とも交流する。



生徒の学力を底上げする 安心と信頼の学習指導

中学の学年生徒数は120名(30名×4クラス)。少人数制教育のメリットを最大限に活かした、きめ細やかな指導に定評のある帝京大学中学校・高等学校。「生徒一人ひとりを大切にする」という信念に基づく、手厚いサポートはまず、中学入学生後の学習習慣をつけさせる指導から始まる。1時限の授業が始まる直前の10分を使って行われる朝講座も、そのための工夫の一つだ。

「朝講座では、英数国の小テストを毎週実施します。基準点に達しない場合は再テストを行い、勉強する習慣を身に付けさせます」と、入試広報部主任の竹之内 毅先生は言う。

さらに、中高全学年を対象とした、学校主催の無料で受けられる夏期講習も実施。予備校とは異なり、実際に生徒一人ひとりの実力を熟知した教員が各講座を担当するので、苦手を克服する指導ができる。昨年度、生徒の要望に応じて開講された講座は、中高合わせて200講座に及ぶ。「塾に通わず、勉強は学校で」という目標を、有言実行した形の夏期講座である。

もう一つ、帝京大中高が誇る大きな特色として、時代の潮流に先駆け取り組まれてきたのが、グローバル教育だ。1980年代から実施している、3週間のニュージーランド語学研修は、高1の希望者を対象とした行事にもかかわらず、例年90%

以上の生徒が参加する、人気の伝統行事になっている。また、高2ではアジア圏への3泊4日の修学旅行を実施し、今年度はベトナムへの訪問を予定している。

「ホストファミリー宅に一人で滞在する語学研修では、なかなか英語が伝わらないことを体験することで、英語は重要なコミュニケーションツールであることを実感します。また、アジアへの修学旅行では、英語を母語としない国の人々が、まったく物怖じせずに英語を話すことに、刺激を受けるようです。帰国後、英語学習を頑張るモチベーションアップに、確実に一役買っていると思います」と竹之内先生は言う。

少人数の中高一貫校ゆえに、生徒と教員、先輩と後輩の心理的距離が近く、学校生活がアットホームなもの、同校の大きな魅力の一つだ。居心地のよさや、手厚いサポートを経験した保護者が、わが子を入学させるといった、親子2代にわたる帝京大中高生も少なくない。信頼して子供を託せる学習環境が、ここにはある。

School Data

〒192-0361
東京都八王子市越野322
☎042-676-9511
<https://www.teikyo-u.ed.jp/>

- 創立 1931年
- 交通
 - 京王相模原線「京王堀之内」駅から徒歩23分
 - JR中央線「豊田」駅、京王線「平山城址公園」駅、小田急多摩線・京王相模原線「多摩センター」駅からスクールバス

コアネットの目

努力を継続し、温かい先生や仲間とともに着実に成長できる進学校▶毎年志願者が大幅に増加している理由の1つが、高い大学合格実績だ。少人数制できめ細やかな指導に加え、先生たちの生徒第一主義の姿勢が生徒たちの安心感へとつながっている。緑豊かなキャンパスのなかでのびのびと過ごしながら、高い目標に向けて努力し、着実に成長することができる教育環境がここにはある。

東京農業大学第一高等学校中等部

Homepage



体験を重んじる探究型学習が特色
自分で考え、発信する力を付ける



from the School

田中越郎校長

行事の準備をはじめ、何ごとにも仲間の気持ちを尊重してやれる生徒が多い学校です。



左／理科の授業では毎週のように実験を行う。手羽先から骨格標本を作製したり、豚の目やあじの解剖など、実験から多くのことを学ぶ。
下／積極的に研究発表や論文発表を行っている。昨年は生物部が日本学生科学賞で東京都優秀賞を受賞した。



「SAKURA Sports Festival」(体育祭)の大根リレーは、クラス対抗で盛り上がる。



中1の総合学習で行われる稲作の体験実習。厚木にある農大の専用農場で、専門家から指導を受け、田植えから除草、稲刈りまでを学ぶ。



中3で実施する北海道自然体験研修は「知耕実学」の体験がいっぱい。知床の自然散策や新巻鮭作りなど体験プログラムが豊富。



自分の好きなことをとことん追求できる環境がある。

教科、学年を超えたゼミ形式の授業が人気

教育理念は「知耕実学」。田中越郎校長は本物に触れる重要性について、プールと海や川の違いを引き合いに出す。

「波風のないプールに対し、海や川には波風が立ち、危険な場所もある。泳ぎに人々に有害な生き物もいる。泳ぎを覚えるにしても、さまざまな不測の事態に対処する知恵が必要になります。どちらの学びが、より実用に即しているでしょう」

体験学習を重んじる学校である。

例えば中1で稲作を体験し、中2では東京農大と連携して、収穫した米を分析する実習を行うなど、自然と触れ合い、自然に学ぶ機会も多い。「文科省の調査でも、自然体験の多い子ほど社会性が高く、読む本の数が多いなどと報告されています」

理科も、中1・中2で週4時間の授業のうち、半分以上は実験を行う。それも教科書の実験の再現ではなく、班ごとに生徒がテーマや実験方法を決める。それは、失敗を許容することから、「なぜ？」を引き出す学習指導の工夫でもある。

教科、学年の枠を超え、生徒それぞれが自分の興味のあることについて学びを深める授業「一中一高ゼミ」も人気だ。そうした自らが選んで取り組み、探究型授業に取り組んできた成果だろう。同校の高校生の研究は「キンギョの鮮やかな赤の源」や「尾瀬のコメツガ切株更新の仕組み」

など、外部の科学コンテストで数々の賞を受けている。

また同校は、英語学習を中心としたグローバル教育にも力を入れている。昨年度からネイティブ教員を増やし、オールイングリッシュの授業を展開。中1・中2の夏休みに実施するイングリッシュキャンプは、全員が参加する。中3では、オーストラリアでファームステイする11日間の研修旅行(希望者)もある。

「本校には理科好きの子が入学してきますが、すぐに英語好きにもなりますよ」と田中校長。中1から自分の英語が通じるという経験をしているので、英語で話すことに躊躇する生徒はいないという。

「バーチャルな知識に頼るのではなく、リアルなものに自分の手で触れ目で見えて考え、自分の言葉で発信できる本物の知性を備えた人間を育てていきたい」(田中校長)

それこそが知耕実学、東京農大第一の真骨頂だ。

School Data

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-33-1
☎03-3425-4481(代)
<https://www.nodai-1-h.ed.jp/>

- 創立 1891年
- 交通
 - 小田急線「経堂」駅から徒歩約15分
 - 東急世田谷線「上町」駅から徒歩約15分
 - 東急田園都市線「用賀」駅、小田急線「成城学園前」駅と「祖師ヶ谷大蔵」駅、JR「渋谷」駅の各駅から東急バスが小田急バスで、「農大前」または「農大―高前」下車、徒歩約3分

コアネットの目

「知耕実学」の下、社会のニーズに対応して進化し続ける進学校▶東京農大第一という理系のイメージがあるが、卒業後の進路として文系を選択する生徒は4割を占め、理数教育だけではなく、最近は、国際教育にも注力している。タイやスウェーデンなどさまざまな国の留学生との国際交流も盛ん。新しく取り入れた語学研修や留学制度も充実し、今後、さらなる成果が期待できる学校だ。

日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校

Homepage



広大な湘南キャンパスで育まれる
学びへの意欲と豊かな人間性



from the School

薄井教靖 中学教頭

高校受験のない6年間。その時間的余裕と恵まれた環境で、自分の可能性を発見してください。



上／中3～高2の選抜者が参加するオーストラリア語学研修。ホームステイをしながら過ごす2週間だ。
左／入学後のオリエンテーション合宿。学校生活への理解を深める。



教室を飛び出して経験を広げるフィールドワークは中1、中2のカリキュラムに組み込まれている。畜産・機械実習は中2で。



中学棟のカフェテリア。施設設備の充実度には目を見張る。講堂に武道館、700人収容の大教室も。



中1のフィールドワークは農場実習。畑の整地、種まき、草取りなどの世話、収穫までを体験する。中学棟のすぐ近くの大学所有の畑で行う。



上／始業前、休み時間、放課後などに、補習や生徒からの質問に随時対応。放課後に学校で課題や予習・復習をする生徒も多い。
右／中3～高2の「国内語学研修」では留学生講師が英語指導。オールイングリッシュの3日間だ。



恵まれた環境で過ごす
可能性を広げる6年間

日本大学生物資源科学部がある湘南キャンパス。緑あふれる広大な敷地（東京ドーム12個分）の一面に、正付属校である日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校が立つ。

「付属校のメリットは、まず学習環境があげられるでしょう。大学図書館や博物館の利用は中・高校生も自由ですし、スポーツ施設も充実しています。大学と連携したフィールドワークなどは他校にはない学びでしょう」と薄井教靖中学教頭。

農場実習や食品加工実習などを通して、人間関係や自然の不思議を学ぶフィールドワークは、大学の農場・施設を活用し、専門知識を持つ大学スタッフの指導の下、大学生の協力を得て行われる。直接、土に触れながら、身近な食物について「科学」する視点は、中学生の知的好奇心を刺激するという。理科の実験授業にも大学生が助手としてつき、生徒たちは自分たちより少し先を歩く「大学生」の存在を常と感じながら学校生活を送ることになる。

中高の6年間でどれだけ自分の可能性を広げられるか。一人ひとりの希望が実現できるように後押ししていくことが同校の教育方針で、その一環として、近年は英語教育および国際理解教育に力を入れている。英語については4技能を段階的に積み上げていくカリキュラムを組み、中1では基礎重視。中2からネイティ

ブ教員による英会話授業（週1回）が始まるほか、「国際理解教育」（ネイティブ教員とともに英語漬けになる2日間）や「国内語学研修」（留学生講師を招いて英語でディスカッションなど3日間）などを設定。さらに中3・高2対象のオーストラリア語学研修、高2のカナダ修学旅行のほか、多彩なコースを用意している。

一方、同校は国公立等の他大に進学する生徒も多い進学校でもある。高校からは他大受験を想定した特進クラスが設けられ、長期休暇時の特進講習など受験指導も万全だ。

「確かな学力がつくことも中高6年間の成長の証ですが、生徒たちを見ていてそれ以上に感じるのは人間としての成長ですね」と、薄井教頭。同校は高校募集もしているのですが、自分たちとは違う背景を持つ高入生と交わる経験もできる。スポーツエリートを含めた同級生たちと一緒に学校生活。その中で中人生はリーダーシップを発揮することが多いという。中高の6年間で精神的にもたくましく大人になっていくようだ。

School Data

〒252-0885
神奈川県藤沢市亀井野1866
☎0466-81-0125(中学校)
☎0466-81-0123(高校)
<https://www.fujisawa.hs.nihon-u.ac.jp>
●創立 1949年
●交通 小田急線「六会日大前」駅から徒歩約8分

コアネットの目

生徒の「自ら学ぶ意欲」を育成し、希望進路実現へ▶日々の授業の予習・復習に加え、実力テスト後の復習の方法も指導し、学習の習慣化を徹底。生徒だけでなく、教員も指導を工夫し切磋琢磨している。中1から実力テストを実施し、生徒一人ひとりが意欲を刺激され、早慶上理やGMARCHなどの他大学への進学に積極的に挑戦できる環境も整っている。

文教大学附属中学校・高等学校

Homepage



独自開発のキャリアノートで 生徒自らが描き出すその未来

from the School

戸田弘美校長



世界の中の自分を意識してほしい。「広い視野を持とう」と生徒に語りかけています。



左／緊急事態宣言下の休校中、4月中旬から毎日4時間、ZoomやYouTubeによるオンライン授業を開始。ICTを活用し、迅速に対応した。

下左／各教科でICTを積極的に活用した授業が行われている。

下右／オーストラリア短期語学研修の交流プログラム。現地の小学校を訪問し、折り紙を教えることで日本文化を伝える。



上／1階にある食堂前の「East Port (東棟)」でランチを楽しむ生徒たち。右／4年前に完成した新校舎のコンセプトは、「PORT (港)」。将来という大海原へ出航するための準備を行う「母港」だ。



自主性こそが学びの源泉 6年間で培う「行動する力」

今年4月、緊急事態宣言の発令から6日後の13日、文教大学付属中高はオンライン授業を開始した。ICTを導入した学校のなかでも、飛び抜けて早い対応だった。「長年、学校改革に取り組んできた先生たちの、熱意の表れです」と、戸田弘美校長は同校の教員を讃える。

「中1、高1へのタブレットの導入が昨年度からですが、それ以前から教員たちは、ICT教育の研修を頻繁に行っていました。これほど早期にオンライン授業のカリキュラムを組めたのは、その成果です」

同校の改革は、国際理解教育分野でも目覚ましい。オーストラリア短期語学研修、中・長期語学留学、台湾修学旅行など、多様な海外体験ができるプログラムを整えてきた。

なかでも台湾の有名大学と連携して行う修学旅行(高2)は、台湾の大学進学への契機となり、欧米の大学にも通用するダブルデグリー取得の道も開いた。また、台湾の大学進学を見据えた中国語講座も開講しており、中1から受講できる。

そうした学習環境を整えた同校が、今さらに力を注いでいるのが、生徒の「主体性を伸ばす」ことを目的としたキャリア教育だという。その考え方は、リクルートと共同で開発した文教独自のキャリアノート「NEWTON」によく表れている。

「予測不能な社会を生き抜くために

は、自ら考える力とともに、自らが主体となって行動を起こしていくことが、とても重要になります」

「NEWTON」は、1学年1冊のワークブック。社会と自身の学びとの関わり(中1)に始まり、日常の課題抽出とその背景の調査(中2)、職業と学問の関わりと高校の学びへの動機づけ(中3)というふうに、今と将来を見据え、成長に合わせた展開する内容。企業の人材育成・自己啓発プログラムに近い。

「ICT教育も国際理解教育も、結局は個々に自主性が備わってこそ、活かされてくるもの。『NEWTON』は樹木に例えれば、根幹に当たる部分を、生徒が自分で太くしっかりと育てていくための教材です」

同校では、未来を切り拓く「主体性」を身に付けるため、6年間を通してキャリアデザインを学ぶ。一昨年、キャリア教育で文部科学大臣表彰を受賞した。「どう生きたいか。そのために、どう学ぶか」という問いの答えを、自分で導き出す経験は、進学、就職という将来の目標へ向かう動機づけとして有力だ。

School Data

〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17
☎03-3783-5511(代)
<https://www.bunkyo.ac.jp/jsh/>
●創立 1927年
●交通 ●東急大井町線・東急池上線「旗の台」駅から徒歩約3分
●東急大井町線「荏原町」駅から徒歩約3分
●都営浅草線「中延」駅から徒歩約8分

コアネットの目

未来を切り拓く「主体性」を身に付ける体系化された学び ▶ 生徒の発表の場面では教員も想像しない生徒の「オリジナリティ」が発揮される場面が増えてきたという。進路(キャリア)を核として、自立学習支援システム(B-ステ)、ICT、国際理解教育などの取り組みは、「主体性」を育むことを目的に体系化されている。そうした環境で学ぶ生徒の表情をぜひ見ていただきたい。

法政大学第二中・高等学校

Homepage



社会を生き抜く「実践知」を育む
課題解決型の大学連携授業が特色



from the School

北詔昌敬校長

社会や人のために、真に自由な
思考と行動を貫き通す、自立し
た生徒を育てます。



図書館を活用して資料の集め方、調べ方、ま
め方習得する。



上／理科実験は3年間で約70回実施。毎回「実
験ノート」に考察をまとめる。

左上／中2で行われる、中大連携のメディア情
報リテラシー教育の授業。「フェイクニュース」
をテーマに考える。

左下／高大連携の取り組みのひとつ、「ワンデ
ーサイエンスカレッジ」。人気の体験授業だ。



多彩な体験重視の教育プログラムを通して、豊
かな感性を育む。

大学連携で養われる
具体的な自身の将来像

「自由を生き抜く実践知」。これは、
法政大学が掲げる大学憲章の表題で
ある。田中優子総長の下、2016
年に発表された。「付属校3校を含
む、法政のアイデンティティを表明
したもの」と北詔昌敬校長は語る。
「大学の足跡と今を踏まえ、法政が
何を社会に約束できるのか。大学、
付属校の教職員、学生・生徒、卒業
生など、関係者の幅広い意見を集め
て練り上げたのがこの憲章です」
同校の卒業生は、例年およそ8、
9割が法政大学に進学する。中・高・
大の10年間にわたる一貫した教育理
念が共有されているのだ。では、憲
章に謳う「実践知」とは何か。
「ギリシャ哲学の『フロネシス』に
由来し、現実問題に直面しながらも、
理想に向かって真摯に課題を解決し
ていく知性を表しています」
同校が中学で行う大学との連携授
業や、新聞作成の授業がこの「実践
知」教育をイメージしやすい。
例えば中2では、大学で情報リテ
ラシーを専門とする先生から、フェ
イクニュースを題材に、情報の見極
め方や扱い方を学ぶ授業がある。現
実に即して、正解のない問題の解決
法を考えるのである。
中3国語の新聞作成では社会問題
を取り上げ、生徒が個々に設定した
テーマを掘り下げて調べる。待機児
童問題や貧困問題など、子供に関わ
るテーマが多いという。同校は中学

では、基礎学力を固めるために少人数クラス制のカリキュラムを組んでいる。そのうえで、さまざまな課題解決型の授業が展開されている。
また大学と連携した研修にも厚みがある。高校生のイングリッシュキャンプでは、大学の派遣留学から帰国した学生がサポートに入る。理科学部の研究室で最新の研究に触れる「ワンデーサイエンスカレッジ」も人気で、ともに参加希望が多い。
「大学と付属校の教員、職員、学生・生徒の研究や課外活動を対象とした『実践知大賞』という表彰制度もあります」と北詔校長。
「2019年度は、本校が長く積み重ねてきた『健康・安全講習会』の実践が賞にノミネートされました」
大学との教育理念の共有と密な連携により、法政第二の生徒は大学がどういふものかを知り、接する大学生を自身のロールモデルにしていける。それが同校のよいところだ。

School Data

〒211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町6-1

☎044-711-4321(代)
http://www.hosei2.ed.jp/

●創立 1939年

●交通 ●JR南武線「武蔵小杉」駅西口から徒歩約12分
●JR横須賀線(総武快速線・湘南新宿ライン直通)「武蔵小杉」駅横須賀線口から徒歩約15分
●東急東横線(みなとみらい線・東京メトロ副都心線・東武東上線・西武池袋線直通)、東急目黒線(東京メトロ南北線・埼玉高速鉄道・都営三田線直通)「武蔵小杉」駅南口から徒歩約10分

コアネットの目

10年一貫教育で実現する「自由な学びと手厚い指導」が魅力▶受験勉強にとらわれることなく、社会で求められる力を育む自由な学びを実践している法政第二だが、先生の目が行き届く手厚い学習環境も魅力のひとつだ。中学1、2年の段階では、1クラス30人未満の少人数教育で徹底指導。英数では分割授業、理科の実験においては1クラス教員2名のチームティーチングなどきめ細かく対応。

立正大学付属立正中学校・高等学校

Homepage



毎日の着実な積み重ねと
キャリア教育で、生徒の未来を開く

from the School



大場一人校長

毎日の繰り返しで着実に力を付けながら、視野を広げて、自らの可能性を追求してほしい。



上／全教室にプロジェクター付き電子黒板を設置。タブレットも活用して双方向型・対話型の授業を実践している。
左／毎朝20分間のショートホームルームで「R-プログラム」に取り組む。毎日継続することで大きな力になる。



上／屋内温水プール、ほぼ全面人工芝のグラウンド、300畳の武道場など充実したスポーツ施設を持つ。



右／立正祭での一コマ。「ライオンキング」に挑戦。



高校教頭で進路指導部長の平林重郎先生。



中学教頭で教務部長の島村雄一先生。



「職場体験」で広告会社の現場へ。目的を持った進路選択を促すキャリアデザインプログラムは、6年間を通じて実施。

将来を見据えた力を育む
独自の「R-プログラム」

1904年創立の伝統校だ。2013年に、西馬込駅から徒歩5分の現在のキャンパスに移転。それと同時にスタートした独自の「R-プログラム」が大きな成果を上げている。「Research (調べる)」、Read (読む)、Report (表現する) の三つの「R」の力を養う取り組みです。読書離れ、活字離れ、国語力の低下が叫ばれている今の子供たちに、三つの「R」の力を付けてほしい。根底にあるのは、大学生、社会人として人前で堂々と話ができる、ディベートができる、文章を読んで理解できる、リポートできる力を付けてほしいという思いです」と大場一人校長が語る。

具体的には、毎朝のホームルームでコラムを読んで要約し、自分の意見をみんなの前で発表するという「読む・書く・伝える」のサイクルを繰り返すプログラムだ。中1から高2までの5年間の積み重ねで、読解力や集中力、思考力、表現力、プレゼンテーション力、さらには協調性や傾聴力が向上。文章を読んだり、発表することが苦手な生徒も着実に成長し、自信をつけていくという。

さらに、毎日の読書の記録をする読書ノート、中学全員で読書量を競うリーディングマラソンも行い、読解力や想像力、読むスピードを格段にアップさせている。その成果は、学校外での各種弁論大会や作文コンクールでの上位入賞、さらには推薦

入試の面接での自己アピール力の向上、記述問題の正答率アップなどにつながっているという。

もう一つの柱はキャリアデザイン教育だ。中1では、社会人として活躍する卒業生から仕事についての話を聞く「職業講話」、中2で行う「マナー講習」を経て、中2・中3では10以上の職種・約70の事業所から選択した職場で「職場体験」を行う。体験先はホテルや司法書士事務所、自衛隊など多岐にわたり、生徒たちは働くことの大変さと楽しさを知り、大きく成長するという。

高校教頭・進路指導部長の平林重郎先生は「仕事の現場や社会を知ること、自分の将来を考え、そこにたどり着くまでの進路を考えるきっかけになります。今の勉強が将来につながっていると気づくことで、自分の内側から勉強への意欲がわいてくるのです」と説明する。

6年間の着実な積み重ねで、生徒一人ひとりを夢に向かって歩ませてくれる。徹底的な面談のよさが、子供の可能性を大きく伸ばしてくる学校だ。

School Data

〒143-8557
東京都大田区西馬込1-5-1
☎03-6303-7683
<https://www.rissho-hs.ac.jp/>
●創立 1904年
●交通 都営浅草線「西馬込」駅から徒歩約5分

コアネットの目

身につけた「3つのRの力」を武器に難関大合格へ▶社会で求められる力を育成するために始まった「R-プログラム」は、大学入試にも生かされており、導入1期生は国公立・難関私大の合格も勝ち取った。人工芝グラウンドや温水プール、テニスコートなど運動施設も充実したキャンパスでのびのびと過ごす6年間には、自然と成長できる体制が整っている。

清風中学校・清風高等学校

Homepage



仏教の教えを基盤とした人間性と
これからの時代を生き抜く力を育成

from the School



平岡宏一校長

人のために全力を尽くす
「清風魂」を育てています。



上／朝礼で平岡校長は、書籍や論文、時事のニュースなどに仏教の観点を交え、同校の精神や生活の心構えを伝えている。

左／YUBAメソッドを開発した弓場先生によるボイストレーニング。教員の授業や生徒のコミュニケーション能力、プレゼンにも役立つ発声力を高めている。



上／情報の授業では、井上先生の指導を実施。AIやコンピュータプログラミングなど高度情報化社会で不可欠な知識と技術を養っている。

右／クラブ活動が盛んな同校。「できれば、加入率100%で6年間続けさせたい」と平岡校長は力を入れている。



変化の激しい時代こそ
心の教育が重要になる

例年、200人以上の国公立大学合格者を輩出している清風中学校・清風高等学校。その進学実績が注目される同校だが、本質は仏教を基盤とした人間教育にある。建学の精神「徳・健・財」は、人から信頼され尊敬される徳を備え、健康で経済的に自立し、世の中に尽くすという意味がある。自身の能力と心を鍛え、他者や社会のために力を尽くす意識を同校では「清風魂」と呼んでいる。平岡校長は、「これからの社会では価値観の転換や心の教育が大切になると考えています。今後、AIや機械によって人が職を失うといわれています。しかし、AIが発達しても人間の情操を超えることはできません。また、変化が激しい社会では、成功し続けることが難しく、心が折れてしまう。しかし、失敗しても自分は成長できたという価値観を確立していれば、すべてをプラスに転化できます。仏教の教えを通じて、そうした心を育んでいます」と語る。

そのために重視しているのが、日々の朝礼だ。毎回、書籍や時事ニュースなどに仏教の観点を交え、生活の心構えや大切さを説いている。また、生徒が日々の出来事や思いを記入し、担任がコメントする「チェックカード」を用いて、同校の理念を生徒の生活習慣に落とし込んでいる。

人間教育の一環として、同校ではクラブ活動を奨励。数々の五輪選手

を輩出してきた高校の体操競技部をはじめ、全国レベルのクラブも数多く、中学校のクラブ加入率は90%に及ぶ。「幅広い人々と対話し、物事を解決していく力や、学問だけではない深い学びが得られるクラブ活動は重要です」と平岡校長は語る。

一方で、新たな教育も取り入れている。スーパーコンピュータ「京」の開発責任者で同校顧問の井上愛一郎先生により、校内にAIフレームワーク「ufiesia」を設置。AI・コンピュータ理解として、パソコンの組み立てや計算処理の数学理論、プログラム言語などを指導している。

また、三重大学名誉教授で世界初の科学的音痴矯正法・YUBAメソッドを開発した同校顧問の弓場徹先生によるボイストレーニングをはじめ、東京大学高大接続研究開発センターのCOREFと連携した知識構成型ジグソー法のアクティブラーニング研修を職員に実施。生徒のために全力を注ぐ同校の精神が、保護者からの信頼を集めている。

School Data

〒543-0031

大阪府大阪市天王寺区石ケ辻町12-16

☎06-6771-5757

<https://www.seifu.ac.jp/>

●創立 1945年

- 交通
- 近鉄・阪神なんば線「大阪上本町」駅から徒歩約3分
 - 大阪メトロ谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅から徒歩約7分
 - JR大阪環状線「鶴橋」駅から徒歩約12分

コアネットの目

「清風魂」を育む人間教育と先進教育への挑戦が信頼の源 ▶ 激動する時代には一層、同校の根幹にある骨太な人間教育が真価を発揮する。日々の朝礼、定評ある進学指導、活発なクラブ活動はもちろん健在。大学・研究者など一流の外部人材と連携する新教育展開は年々厚みを増している。

Homepage



甲南女子中学校・高等学校

伝統の人間教育を基盤に 社会で活躍できる自立した女性を育成

from the School



後田尚宏副校長

自分の理想の姿を描き、その道を歩める女性を育てています。



上／百周年記念として、生徒主体で作製した冊子とバッグ。同校の育む主体性・自立性のひとつの成果だ。
右／グラウンドを緑豊かな全面人工芝へ改修。学校は神戸の海を一望できる閑静な高台にあり、健やかな精神が育まれる教育環境だ。



上／2019年に開始した「アサーション」。対話形式で自分の思いや、望む未来の自分像などを話し合う。傾聴の姿勢や相手の気持ちを汲み取る力を養う。
左／現在、ICT環境の整備を進めている同校。AIとの会話など現代社会に必要な情報リテラシーも養っている。



「探究」でのグループワークやテーマ学習を通じて、主体的な姿勢やより深く総合的な力を身に付ける。



グローバル教育に力を入れる同校。ネイティブ教員による英会話授業のほか、大学受験に役立つ資格対策も実施している。

創立百周年を迎え、 より充実した教育体制に

2020年に創立百周年を迎える甲南女子中学校・高等学校。創立以来、「清く、正しく、優しく、強く」を校訓とした人間教育で、自立した女性を世に送り出してきた。

そのひとつが「聖座」の習慣だ。これは姿勢や呼吸法、精神性を取り入れた椅子着席時の作法だ。

「建学の精神」まことの人間になる」を目指すための、独自の座位です。朝礼や中学の道徳の授業で毎回行うことで、本校の目指す精神性を養っています」（後田尚宏副校長）

また、「アサーション」という独自の取り組みも行っている。これは、生徒同士が会話し、自分の考えも相手の意見も尊重しながら、お互いに自己表現し合う対話プログラムだ。

対話の内容はスクールカウンセラーが監修し、教員や生徒へフィードバックすることで主体性や傾聴の姿勢、表現力の養成につながっている。

「自分を知り、相手の話を聞いたうえで自己表現する力は、生徒の成長や社会に出てからの力になります」

養われた力は、在学中から発揮される。学校行事や高校3年生がつくる第二校歌、創立百周年記念のグッズ製作まで生徒たちが行うという。

同校は、進学面にも力を入れており、東大、京大、阪大などの国公立大学や医学部への進学者を毎年輩出している。また、今後のグローバル社会に対応する力として、以前から

少人数授業による会話力や音声学習によるリスニング力など、英語力を強化。また英語検定へのチャレンジを推奨し、外部の資格指導の専門講師による対策講座も行っている。

「中学3年修了時でSアッドバンドコースは準2級、スタンダードコースは3級の合格を目標にしています。現在、導入中のICT環境が整えば、オンライン英会話や英文の多読、発話練習に活用したいと考えています」（後田副校長）

また、20年近く取り組んできた総合学習（中2「平和」、中3「保育体験実習」、高1「探究」）では、主体性や思考力を養成。今後は主体的・対話的な深い学びが求められることから、内容を刷新するという。

「中1の尊重、中2の対話、中3は環境をテーマとした総合学習に取り組み、高1で研究活動をする形にします。高2以降も継続しますが、高1までの4年間ですっかりと主体的・対話的な深い学びを身に付けさせたいと思います」と後田副校長。

確かな教育の軸があるからこそ、同校の生徒たちは自立した女性へ成長していくのだろう。

School Data

〒658-0001
兵庫県神戸市東灘区森北町5-6-1
☎078-411-2531
<http://www.konan-gs.ed.jp/>

- 創立 1920年
- 交通 ● 阪急神戸線「芦屋川」駅から徒歩約15分
● JR神戸線「甲南山手」駅から徒歩約10分

コアネットの目

伝統の人間教育のうえに展開されるアサーション教育に注目 ▶ 長年、社会で輝き、活躍する女性を送り出してきた同校。素晴らしい眺望を楽しめ、自然と交流が生まれる明るい校舎をはじめとする抜群の教育環境と、主体性や自立心を育む教育実践の蓄積が魅力だ。今回紹介したアサーション教育の今後にも注目したい。

親和中学校・親和女子高等学校

Homepage



「主体性」「多様性」「協働性」をキーワードに 豊かな個性が集まる親和女子へ

from the School

竹内弘明校長



主体的に考え行動する力、
多様な価値観を尊重し
協働できる力を育みます。



上／毎年エール大学と交流を行うなど校内で海外交流を実施。中学では外部の英会話教室と連携し、授業にグローバル教育を取り入れている。中3の「ニュージーランドホームステイ」「メルボルン交換留学」、高2の「オックスフォード大学英語・文化研修」の海外研修も好評だ。

右／「国際コース」以外のコースでも独自のグローバル教育を展開。「総合進学コース」では、海外で探究学習に取り組む「異文化探究研修」を行っている。



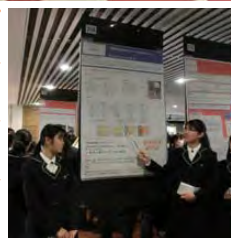
生徒一人ひとりがタブレット端末を所持。学習内容の振り返りや「探究学習」での調べ学習、オンライン英会話による英語4技能の向上などに活かされている。



“親和”な校風は、同校の伝統。中高の生徒が一緒に作り上げる5月の文化祭は、外部参加者の多くが「入学したい」と感じる名物イベントだ。



少人数のグループで、テーマ設定から調査、研究、ディスカッション、ポスター発表まで行う「探究学習」。学びに対する主体性や協働性を養っている。



生徒の希望に応え、 より個性を伸ばせる環境に

1887年の創設以来、「自立した女性、社会で活躍する女性、いつも輝いている女性」を育成してきた。現在、取り組んでいる学校改革の意図を、竹内弘明校長に伺った。

「グローバル化・高度情報化等、変化の激しい社会において、それぞれの個性を活かし、柔軟に、そしてたくましく生き抜いていく力を育むためです。それは、主体性を持つて、多様な価値観を持つ人々と互いを尊重し、協働できる力です」

同校では従来、実践的な英会話授業や豊富な国際交流プログラムなど、国際力育成に力を注いできた。一方で人間力を育む授業も実践。それが少人数グループで調査、研究、発表を行う「探究学習」。昨年度から高校の全コースで「探究学習」を導入し、人間力養成に力を注いでいる。

「探究学習を通じて、主体的な姿勢や協働する力、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力が養われます。これらの力は、今後の大学受験や社会で役立ちます」（竹内校長）

アクティブラーニング型学習の効果を高めるのが、ICT環境だ。同校では、一人一台のタブレット端末を用意し、全教室に電子黒板を完備。可動式のデスクなどを備え、グループワークなど多目的に利用できるラーニングコモンズも設置している。多様な仲間と切磋琢磨できる環境づくりとして中学入試を改革。20

School Data

〒657-0022
兵庫県神戸市灘区土山町6-1
☎078-854-3800
<http://www.kobe-shinwa.ed.jp/>

- 創立 1887年
- 交通
 - 阪急神戸線「六甲」駅から徒歩約15分
 - 阪神本線「御影」駅・JR神戸線「六甲道」駅から神戸市バス「高羽町」下車、徒歩約5分

20年度から、発表と面接のみの「プレゼン入試」「得意科目重視型入試」を実施している。また海外育ちの生徒が対象の「帰国子女入試」を国内・海外で行うとともに提携校を拡大。上海日本人学校、バンコク日本人学校など海外7校、国内2校から多様な生徒を迎える体制を整えている。今年度は中高のコース再編も行った。高校では「国際コース」を新設。同コースでは、3カ月・6カ月・1年から選択できる海外留学が必修。授業では、英語の4技能を徹底的に伸ばすとともに、中・韓・欧州内から1言語を選ぶ第二外国語授業、英語による「探究学習」を実施。国際機関・外国人留学生との交流の機会も用意している。

中学のSコースでは、高校進学後のコースを理系中心の「Sサイエンスコース（SS）」と文理型の「Sリベラルアーツコース（SL）」に分割した。「高1からコースを分けることで、生徒の個性をより伸ばします」と竹内校長。より個性豊かでグローバルな、親和女子に期待が集まる。

開明中学校・高等学校

Homepage



勉強、クラブ活動、行事
すべて楽しみながら成長する



from the School

林 佳孝校長

中学では学ぶ楽しさや喜びを見
つけ、生徒自身が自主的に勉強
に取り組んでいます。



上、左／豊富な学校行事の一つ、中学2年で行
う理科実習。和歌山県加太で海の生物を採集し
て、分類・観察・解剖・実験・発表を行う。



上／全教室に電子黒板を設置。

右／開明の名物行事「しまなみ海道夜間歩行」では、多く
の保護者たちも炊き出しなどでサポートする。



留学先の学校から生徒を受け入れ、学内で交流
する。

2014年、創立100周年を
記念して建てられた
新校舎で学ぶ。



行事を通じて磨く
体力、好奇心、協調性

大正3年に大阪貿易語学校として
設立された開明中学校・高等学校は、
6割以上が国公立大学に進学するト
ップクラスの進学校。今年も東大や
京大をはじめ国公立大学に約6割の
生徒が合格。それを支えるのが中学
3年間に培われる「学びの土台」だ。
「中学では体力、好奇心、協調性を
身に付ける総合学習として行事を大
切にしています。何事も自分の目で
見て、触って、体験することから興
味は生まれます」と語る林佳孝校長。
中2の和歌山県加太での理科実習
では、海洋生物の観察、実験を行い、
成果をレポートにまとめて発表する
までの流れをつくる。他の体験学習
でも、興味・関心を広げながら深い
学習へと発展させていく。
一方で成長期の体と心を鍛えるこ
ともにも注力。自然の中で自分の限界
まで挑戦させる行事も多く、その集
大成が中学卒業記念の「しまなみ海
道夜間歩行」だ。広島県生口島の海洋
センターから愛媛県今治市の糸山公
園までの約43kmを14時間かけて歩く。
「夜通し歩くことで培われる精神力、
仲間と協力して達成する経験は得難
いもの。この経験は、社会に出てか
らでも試練を乗り越える大きな力とな
ります」（林校長）
中学は「理数」と「スーパー理数」
の2コース制で、授業時間は中学で
1コマ50分×週37時間と多い。だが、
進度はゆっくりで、家庭で予習復習

をしたうえで授業をしつかり聞いて
学習を積み上げていく。だからこそ
授業内容が重要だ。

「生徒の学びの原動力は、もっと
知りたい」という気持ち。限られた
時間に、どこで生徒を感動させられ
るかといった「授業のシナリオづく
り」こそが、本当の意味での教材研
究だと考えています」（林校長）

また、同校は創立当初から国際社
会で活躍する人材育成を目指してき
た。英語教育は授業での4技能修得
と国際交流に力を入れている。毎年
高1の夏には希望者による2週間の
オーストラリア語学研修を実施。1
家庭に1人のホームステイで、現地
の学校で午前中は語学のレッスン、
午後はスクールバディとともに英語
で授業を受ける。同時に留学先の学
校から生徒を受け入れて交流する。
1世紀に及ぶ伝統を大切にしながら、
革新的な学びにもチャレンジを
続ける開明。勉強、クラブ活動、行
事を全力で楽しみながら、心身とも
に成長できる環境がここにはある。

School Data

〒536-0006

大阪府大阪市城東区野江1-9-9

☎06-6932-4461

<https://www.kaimei.ed.jp/>

●創立 1914年

●交通

- JR・京阪「京橋」駅から徒歩約8分
- JRおおさか東線「JR野江」駅・京阪
本線「野江」駅から徒歩約12分
- 大阪メトロ長堀鶴見緑地線・今里
筋線「蒲生四丁目」駅・谷町線「野
江内代」駅から徒歩約12分

コアネットの目

行事などの体験学習や日々の着実な学びが群を抜く進学実績に結実▶6年間で着実に学力を伸ばし、半数以上の生徒を国公立大学合格に導く指導力に
定評がある。成長期の体と心を鍛える名物行事も大きな魅力になっている。興味、関心を広げる工夫・仕掛けが積み重ねられ、進化を続ける授業にも
注目したい。

近畿大学附属高等学校・中学校

Homepage



探究とグローバルをキーワードに 現代型の教育体制を構築

from the School



教務部長 志船八郎先生

「人に愛される人、信頼される人、
尊敬される人」を育てています。



上／協働力や対話力、創造性を育むグループワーク。探究授業のほか各教科の授業でも積極的に取り入れている。

左／英語を使って考え、英語で発表・表現する「Cambridge English」の授業で4技能を養成。



上／探究授業では、少人数グループでテーマ学習に取り組む。テーマに対して、知識を学び、一人ひとりがアイデアを出し、討論を経て結論を導き出していく。
左／教務部長補佐・野田由紀子先生。



右／2014年から生徒全員にiPadを配付。双方向授業や調べ学習、グループワークなど幅広く活用している。
左／全国の学生がプレゼンテーションの内容を競う「クエストカップ」に参加。研究力や表現力を養っている。



21世紀型の力を養うため 従来の授業・評価を一新

2014年にICT教育体制を整備するなど、先進的な教育を導入してきた近畿大学附属高等学校・中学校。新しく変わる大学入試制度や、新学習指導要領に向けた教育改革として「チャレンジ 21st Century」をスタートさせた。

「新学習指導要領の『知識・技能』『学びに向かう力・人間性』『思考力・判断力・表現力』といった三つの柱をバランスよく育成するための改革です」(志船八郎先生)

同校の改革は、大きく授業改革と評価改革に分かれる。授業改革では、カリキュラムを大幅に変更し、総合学習の内容を増加。中1は「総合表現」として、将来の論文作成のための文章基礎力を向上。中2は「新聞作成」に取り組み、文章表現力を磨く。中3では「My Story」として、1年間かけて自分史を作成する。

一方で探究学習も実施しており、自校教育やSDGsをテーマとして、生徒の視野を広げる。また、企業のインターンとして社会の課題に対する解決法を考え、発表する企業探究も実施。全国大会となる「クエストカップ」にも挑戦する。

さらに、各教科の授業にも能動的な学びを導入している。「グループワークやお互いに説明する学習法など、深い理解を得る内容にしています。従来の知識学習をベースに、生徒がほかの生徒に教えたり、時には

生徒が問題や小テストの作成を行うこともあります。アクティブラーニングの学習法を取り入れたことで、生徒も教員も楽しみながら授業に取り組むようになりました」(野田由紀子先生)

学び方が変わったことで、得た知識を有効活用できているかなど、評価方法も一新させた。「生徒が大きく成長するには、自己肯定感を持つことが大切です。そのため通知表は点数で評価して順位をつける形から、各自の目標達成度を伝えるメッセージに変えました」(志船先生)

グローバル教育も充実している。英語の4技能をバランスよく養う「Cambridge English」、隣接の近畿大学でネイティブ教員と英語でのクイズ等に取り組む「Echallenge」、カリフォルニア州立大学の学生らとグループ討論を行う「J-エンパワメントプログラム」などを通じて高度な英語運用能力を育てている。同校の新たな教育は、ICT導入のように、今後の日本のスタンダードになるかもしれない。

School Data

〒578-0944
大阪府東大阪市若江西新町5-3-1
☎06-6722-1261
<http://www.jsh.kindai.ac.jp/>
●創立 1947年
●交通 ●近鉄大阪線「長瀬」駅から徒歩約20分
●近鉄奈良線「八戸ノ里」駅から徒歩約20分
※近大シャトルバス約5分
通学バスの運行あり(詳細はホームページ)

Homepage



三田学園中学校・高等学校

文武両道の全人教育、
その伝統を守り、革新を進める

from the School



松井忠幸校長

クラブや行事に熱心に取り組む
ことで、自主性・協調性・体力
を備えた「人間力」を養います。



左／グローバル教育は、
中3と高1の希望者が
オーストラリア、高1、
2年生がカナダで語学
研修を積む。

下右／国内でもグロー
バルヴィレッジに参加
して国際力を磨く。
下左／甲子園球場12
個分の緑豊かで広大な
敷地に、新旧の施設が
融合するキャンパス。



上／3年前からタブレ
ットを各授業で活用し
ている。



右／自分の興味を發展
させ、ゴールドポスタ
ー賞を受賞した生徒も。

自分発、 未来を創る人になる

108年の歴史を持つ伝統校。16
万㎡の広大なキャンパスには木々が
豊かに茂り、校舎は歴史的建造物と
最新の建築が調和。心地よさと機能
を兼ね備えた学びの空間を形成する。
同校では、高い知性と人間性を備
えた人材の育成＝全人教育に力を注
いできた。その礎となるのは「文武
両道」の精神だ。中学生の9割がク
ラブ活動に参加。高校でも全国大会
レベルで活躍する部活と勉強を両立
させ、現役で国公立大学や医学部合
格の実績を出している。

そんな伝統を守りながら、男女共
学化や中学コース制導入といった改
革を行ってきた。コースは習熟度別
によるクラス編成で、中学早期から
高い学力を養成する「Sコース」と、
基礎的な内容に重点を置き、3年間
で着実に学力をつける「Aコース」
からなり、中学1年生から担任全員
で学年指導にあたる学年担任制が、
6年間を見通した教育指導を実現。
放課後の個別指導など、教員の面倒
見のよさでも知られている。

さらにICT教育とグローバル教
育にも力を注ぐ。ICTに関しては
3年前から生徒全員がiPadを授
業で活用。「iPadはひとつの問
い掛けに対して、一斉に全員の考え
を共有できるのが大きい」と松井忠
幸校長。「自分の意見を客観視でき
るので、グループワークでのシート
作りも工夫するようになり、積極的

に発言する生徒が増えました」。休
校中も課題や授業動画を配信、生徒
は課題提出や質問をし、コミュニケ
ーションがとれている。

グローバル教育は海外研修を中心
に据え、中3と高1の希望者が春に
オーストラリアへ。昨夏から高校1、
2年生を対象にカナダ、来春をめど
にフィリピンの語学研修も企画中。
現地の英会話の授業やホームステイ
によってコミュニケーション能力の
向上や、異文化理解力を深める。

本校が掲げるスローガンは「自分
発、未来を創る人になる」。「昨年は
ケニアに赴き、現地の子供たちに文
房具を届ける生徒も出てきました」。
これは生徒自身が見つけたプログラ
ムで、多くの生徒が賛同して文房具
が集まったという。ほかにも「大阪
大学SEEDSプログラム」への参
加や、食品ロスに興味を持ち「食
エコレシピ甲子園」に挑戦する生
徒など、「自分発」が次々と具現化
されている。緑豊かな丘に広がるキ
ャンパスで、生徒たちは歴史と伝統
を感じながら、自身で考え、判断し
行動につないでいける豊かな人格と
知性を身に付けていく。

School Data

〒669-1535
兵庫県三田市南が丘2-13-65
☎079-564-2291
<https://www.sandagakuen.ed.jp/>
●創立 1912年
●交通 神戸電鉄「横山」駅から徒歩1分

コアネットの目

抜群の教育環境のなかで実践される全人教育と新時代の教育が融合▶堅調な進学実績とともに、クラブ活動が盛んなことでも知られる文武両道の共学校。休校中の対応にも活きた積極的なICT教育は、思考力、発信力を伸ばす基盤になりつつある。抜群の教育環境のなかで、自分らしさを伸ばし躍動する生徒たちにも注目したい。

滝川中学校・高等学校

Homepage



新時代の社会で必要不可欠な
「社会人基礎力」を習得させる

from the School



下川清一校長

個性を持った生徒を受け入れて
伸ばし、発揮することを邪魔し
ない。それがわが校の校風です。



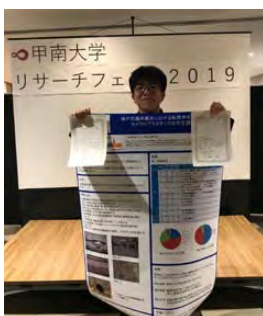
上／ニュージーランドで鍛えた英語力を落とさないために、英語で行うイメージ学習を実施。

左／ECCと共同実施のオンライン英会話も活用して英語力を維持。



右／マイクロプラスチックの研究で、昨年の
リサーチフェスタで受
賞した生徒もいる。

左／「医進グローバル
コース」の中学3年生
全員が参加する、3カ
月間のニュージーラン
ド留学。確実に生徒た
ちを成長させる。



新型コロナウイルスで休校になっている間、先
生方全員がホームページ上に生徒たちへの一言
激励メッセージを寄せた。

個性を最大限に伸ばし
次世代のリーダーを育成

100年の歴史を誇る滝川中学
校・高等学校。校祖・瀧川辨三の考
え方、生き方を込めた校訓「至誠一
貫」「質実剛健」「雄大寛厚」に立脚
した「滝川リーダーシップ教育」を
実践し、次代のリーダーを数多く社
会へ輩出してきた。このプログラム
では授業時間を週39時間確保し、確
かな学力の定着を図る一方、多様な
リーダーシッププログラムを通して
「社会人基礎力」の育成に取り組む。
さらに2015年度からは中高一
貫教育のメリットを活かすためにコ
ース制に。新設された医進グローバ
ルコースは、従来の医進コースのカ
リキュラムをくみながら、同時に実
践的な英語力と論理的思考力も磨く。
滝川らしい学びの本質を見据えたハ
イレベルな教育と、「人材育成あり
き」の強い思いがうかがえる。
「最近では培われた探究心や発信力
を校外へ発信する、頼もしい生徒も
出てきました」。そう語るのは下川
清一校長。
甲南大学の「リサーチフェスタ2
019」に同校の高校2年生が初参
加。「神戸市灘区灘浜における魚類
消化管内のマイクロプラスチックの
存在調査」というテーマで、クリエ
イティブテーマ賞とロジカルデザイ
ン賞を受賞して高く評価された。こ
れも関心の持てるものを探究し、発
信する力を育ててきた結果だろう。
また中学3年間で身に付けた英語

力をより実践的なものにするために、
異なる文化や歴史を持つ国での教育
機会も提供。中3で実施されるニュ
ージーランドへの3カ月間の留学で
は、高い英語力の養成はもちろん、
人間的な成長が著しい。多感な時期
に海外を経験することで、社会全体
の見える方が大きく変わっていく。
「現地では全員違う家庭にホームス
テイシ、学校も振り分けず。そんな
環境で3カ月過ごした生徒は、驚
くほどたくましくなって帰ってきました」
と確かな手応えを感じている。
高2秋にはシンガポールとマレー
シアへの修学旅行。事前学習として
高1からPBL（課題解決型学習）の授
業があり、自ら調べ疑問を解く力を
鍛える。さらに帰国後もイメージ
ン学習やオンライン英会話で、英語
力を持続させる体制も整っている。
「生徒たちは何かあったとき、自分
で解決しようと奮闘しています。周
りもそれを認める風風がある。それ
は当校の伝統のなかに、個性を活か
すことが浸透しているからです」
生徒の個性は未来に輝く原石。そ
う信じて伸ばしていく。この姿勢が
多くの保護者から支持されている。

School Data

〒654-0007
兵庫県神戸市
須磨区宝田町2-1-1
☎078-732-1625
<https://www.takigawa.ac.jp/>
●創立 1918年
●交通 神戸市営地下鉄・山陽
電鉄「板宿」駅から徒歩
約5分

コアネットの目

「滝川リーダーシップ教育」と新教育で社会人基礎力を伸ばす▶伝統ある男子校として、学力と人間力を総合的に伸ばす教育に定評がある。充実したリーダーシップ教育と、思考力や英語力を伸ばす新教育実践が、探究心、発信力、行動力などの成長を促す。大学生、社会人として伸び続ける人づくりへのこだわりが魅力だ。

滝川第二中学校・高等学校

Homepage



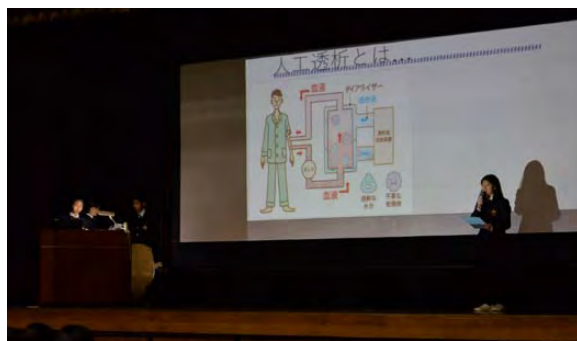
ユニークで元気な校風はそのまま 来年度から新コース制導入



from the School

滝川好庸校長

新たな時代に必要とされる力を付ける、新たなコース制を構築します。



上／毎週水曜日にさまざまな学習・体験を行う「スペシャル・ウェンズデイ」。クエストカップへの参加や進路探究プログラムなどで、生徒たちの自主性や興味を引き出す。
左／オンライン英会話の授業。



少人数だから絆が深まるプログレッシブ特進一貫コース。



右／高校2年の海外研修は、企業訪問や大学見学が中心。

左／昨年、広大なグラウンドを人工芝化。野球やサッカーなど全国レベルの部活動も多い。



上／金子幸平先生。
右／中学入学時のオリエンテーション合宿。



半年間の留学など 革新的な新コースを準備

1984年に高校が開校し、2004年に中学校がスタート。13年からは「特進一貫コース」と「プログレッシブ特進一貫コース」の両輪で、時代のニーズを先取りしてきた滝川第二中学校・高等学校。

「プログレッシブ特進一貫コース」は数理探究型＋グローバル教育を軸とし、これまでに2期50人が巣立った。進学先は、大阪市立大学医学部医学科や一橋大学をはじめとする国公立大学が34名。その中には、高校時代にアフリカの難民キャンプでボランティアを体験したことをきっかけに、貧困に苦しむ国の人の命を救いたいと、ハンガリーの国立大学医学部に進学した女生徒もいる。この1期生・2期生を送り出した金子幸平先生は「プログレで喜びもつらさも分かち合ってきた彼らの、卒業式での号泣が忘れられません」と話す。

そして、来年度から「至誠一貫、質実剛健、雄大寛厚」の校訓は大事にしながら、いいものを取り入れて変わっていく」との滝川校長のポリシーのもと、新しい3コース制を準備中だ。

まず、中学3年から高1の間に海外留学を組み込む「IUE (International Understanding Education) 知識実践コース」。これまでにない英語に特化したコースで、留学までに先取り授業を行い、十分な英語のインプットをし、実践的なアウトプット

School Data

〒651-2276 兵庫県神戸市西区春日台6-23
☎078-961-2381・2385
<https://takigawa2.ed.jp/>

●創立 1984年

●交通 ●JR「西明石」「明石」駅・山陽電車「山陽明石」駅から神姫バス「平野小学校前」下車、徒歩約8分。「環境西事業所前」下車、徒歩約10分
●神戸市営地下鉄「西神中央」駅から神戸市営バスで「西体育館前」下車、徒歩約5分
*登校時直通バス JR「西明石」「明石」駅と山陽電車「山陽明石」駅から「滝川第二中・高前」まで、所要約25分

につなげる。二つ目は、これまでの「プログレッシブ特進一貫コース」から、さらに理数教科に特化した「プログレッシブ数理探究コース」。これまで培ってきたノウハウを生かし、個々の進路実現を成し遂げていく。三つ目は、生徒たちが好奇心や可能性を追求し、未来を創造していく「エキスパート未来創造コース」。すでに得意分野のある生徒はそれを伸ばし、まだ見つかっていない生徒は学校全体でバックアップ。そしてお互いに刺激し合い、高め合いながら自分の進む道のエキスパートを目指すコースだ。

「全教員が新しい滝二の伝統を作ろう」という気概を持っています。これからの時代に必要能力を身に付けさせるには、どういった教育が必要か。先生方と挑戦を続けます」(滝川校長) 先生が元気な学校は、生徒たちにも活気がある。滝川第二の挑戦に注目したい。

コアネットの目

進化が止まらない滝二の3つの新コースに注目 ▶ 2004年の中学スタート以来、挑戦を続けてきた滝二。進化を止めない教師陣の情熱とエネルギーは次に、激動の時代を見据えた新コース創造に向かう。先進教育の成果を体現するスケールの大きな生徒たちの活躍は、さらに加速していくだろう。

桃山学院中学校高等学校

Homepage



「自由と愛の精神」と実績ある教育で
生徒の人間力と学力を、より高みへ導く



from the School

生田耕三中学校教頭

個性と自主性を伸ばしながら、
生徒の望む進路を実現します。



左／中学の3年間はネイティブ教員が副担任につき、英語の授業を行う。



上／中学からオンライン英会話レッスンは始まる。



右／2018年度入学生からiPadを導入。授業や連絡などに活用し、教育のICT化を進めている。



冷暖房完備の8階建ての校舎で、快適に学園生活を送る。

豊富な学校行事を通じて
人間力を大きく育む

生徒一人ひとりの個性と能力が伸びる秘密は、豊富な学校行事にある。中学入学後のオリエンテーション合

明るく自由な校風のもと
生徒の力を開花させる

1884年に英国聖公会宣教師協会がボーイズスクールを設立。この学校を前身とする桃山学院中学校高等学校は、「自由と愛の精神」を建学の理念に生徒の自主自律を重んじる教育を実践。一人ひとりの可能性を開花させ、自身の力で社会に貢献できる人間を育ててきた。

2008年には中高一貫教育をスタートさせ、超難関国立大学や医歯薬系大学・学部を目指す6年選抜コースと、国公立大学や難関私立大学を目指す6年進学コースを設置。高校はS英数コース、英数コース、文理コース（文理クラス、アスリートクラス）、国際コース（クラスA、クラスB）。

同校の伝統である明るく自由な校風のもと、生徒はそれぞれの目標や個性に応じて切磋琢磨し、のびのびと成長している。

宿では、食事作りなどを通じて仲間との絆を養成。同合宿では生徒たちが相談して各学級のルールをつくるなど、自主性も育んでいく。

その後も、「サマーキャンプ」、「スキー合宿」、「耐寒登山」など年間20回近い行事を実施する。中2の「磯実習」では海洋生物や環境を学び、中高を通じて「いのちの教育」では、救急救命講習会や病院見学、講演会を行うなど、自然や命の尊さを学ぶ行事もある。こうして生徒たちの視野を広げている。

生徒たちの自主性・自律性が発揮されるのが、中3の修学旅行だ。その準備は中2から始まる。まず、グループごとに行き先から旅程、目的まで詳細な旅行プランを企画。それぞれのプランをプレゼンテーションし、生徒たちの投票でその学年の修学旅行を決定する。

また、高校1〜3年生と卒業生が参加する夏のキャンプ行事・桃山「学」宿では、毎年2年生が実行委員会を結成して、企画・準備・当日の運営までを行う。同校の行事は楽しいだけでなく、豊富な機会を通じて自主性や責任感、コミュニケーション能力、プレゼンテーション力、リーダーシップなど、さまざまな力を育む機会になっている。

「行事は学校生活を楽しみ、前向きに取り組むよい機会です。例年、中学の修学旅行を経験した中高一貫生は、企画力が高いと感じます。今後は、修学旅行で必ずファームステイを組み入れる、準備・実践・振り返



国際プログラムが豊富な桃山。全員参加のロンドン海外研修(高校)は、生徒たちに大きな刺激となる。



左／クラブ活動も盛んだ。空手の女子団体組手は全国大会にも出場。



下／今年から校庭は全面人工芝に。

伝統の英語教育と海外研修で国際力を育む

りを行うなど、生徒の学びや成長につながる工夫も強めたいと考えています」(生田耕三中学校教頭)

同校は学力養成にも余念がない。

特に、「英語の桃山」と呼ばれる英語教育は特色のひとつになっている。同校では、中1から3年間は各クラス副担任にネイティブ教員を配置し、普段から生きた英語に触れる環境を構築。また英文の書物をたくさん読み、学内のパソコンでの朗読音声を聞く多読多聴の習慣づけにより、リーディング力とリスニング力を高めている。

また中高を通じて会話能力を養う海外ネイティブ講師とのオンライン英会話レッスンや、英語検定取得対策講座を開講するなど、英語教育のメソッドを確立。中学で英検準2級を取得する生徒も多い。

英語力をさらに高め、国際的視野を育む国際教育プログラムも充実している。中学ではニュージブランド短期海外研修(希望者)を設定し、高校では全員参加のイギリス・ロンドン海外研修、マレーシア研修と、1年間の長期留学(ともに希望者)も行っている。

また、高校生を対象に3日間、アメリカ・ハーバード大学の学生と一緒にディスカッションやプレゼンテーションに取り組む学内留学や、オーストラリア・メルボルン大学のビジネス学や環境学の専門知識を学

ぶ高1のイメージプログラムなど、校内での国際交流も盛んだ。

「ホームステイを体験し、本場の言葉と文化に触れるロンドン海外研修を経験した生徒たちは、毎年、大きな刺激を受けて帰ってきます。今後は、校内で海外の人とゲームなどに取り組み、イングリッシュ・キャンプも取り入れたいと考えています」(生田教頭)

特別授業の内容を強化し、進学力をさらに高める

進学を見据えた学力養成にも力を入れ、2020年度入試における全体の現役国公立大学合格者数は191人であり、そのうちの30人が中高一貫生となっている。大阪大学3人、医学部2人をはじめ、中高一貫生の約3分の1が国公立大学に現役で合格している。近年は、自由な校風と併せて「ソフトな進学校」と称されるなど、着実に進学実績を伸ばしてきた。

高い進学実績を支えているのが、手厚い学習サポートにある。中学の一貫コースでは、週6日38時間の豊富な授業数と、早朝テストを行うことで、進度確認を通じた丁寧かつ先取りの学習を展開。さらに中高を通じて、放課後に弱点強化など基礎学力を徹底的に鍛えるRゼミや、全員参加の自習ステージ、夏期講習、進級前の勉強合宿も行うことで、一人ひとりの学力の基盤をしっかりと固めている。一方で、学力上位の生徒たちには、M1ゼミを開講し、さら

に応用力や高度な学力を身に付けさせてきた。

20年度以降は、これら実績のある学力養成のプログラムをいっそう強化していく考えだという。

「80分間それぞれの課題に応じた学習に取り組んできた、自習ステージの強化を図っています。今後は、翌日の朝に行う小テストとリンクするかたちで、自習ステージを終えて家庭での自学自習にも取り組む内容にマイナーチェンジします。

成績上位層に対しては、これまでのM1ゼミに加えて、中1から東京大学や京都大学の難問を想定した問題に取り組む特別ゼミを新設する予定です。また、従来は校内の先生が担当していた英検の対策講義は、今後、外部の資格取得専門の教員を招へいしようと考えています。これにより、本校の教員には、より生徒一人ひとりの指導に力を注げる環境にしたいと考えています」(生田教頭)



School Data

〒545-0011
大阪府大阪市阿倍野区昭和町3-1-64
☎06-6621-1181
<https://www.momoyamagakuin-h.ed.jp/>

- 創立 1884年
- 交通 ●大阪メトロ御堂筋線「昭和町」駅から徒歩約5分
- 大阪メトロ谷町線「文の里」駅から徒歩約8分
- JR阪和線「南田辺」駅から徒歩約10分

東洋大学附属姫路中学校・高等学校

Homepage



探究心を刺激する恵まれた環境で
「考えるを、学ぶ。」を实践

from the School



大森茂樹校長

キャリア・フロンティアをはじめ、新しい学校だからできる挑戦を続けます。



左／東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターに赴き、3日間にわたって実験や研究に参加する。

下／6学年がひとつになって盛り上がる体育祭。オーストラリアの姉妹校も参加した。



上／高校2年ではディベート大会を実施。



キャリア・フロンティアを推進する黒河潤二先生。



右／中学1年のキャリア・フロンティアプログラムは、自分たちの地元・姫路研究からスタート。



独自で構築した キャリア・フロンティア

「考えるを、学ぶ。」をスローガンに進化を続ける、姫路市唯一の共学の中高一貫校。創設6年を迎えた今年、中高一貫コース1期生が大学入試に挑んだ。結果、推薦入試を含め東京大学、大阪大学など国立大学への合格者を多数輩出し、「創設時からのプログラムが実を結び、理想に近づくことができた」と大森茂樹校長。

同校は「国際化・キャリア教育・哲学教育」が教育の三つの柱。その核となるのは、物事の本質を見据え、深く考える力を育む独自のプログラム「キャリア・フロンティア」だ。

これは課題解決学習に、今後の社会全般で必要とされるリテラシーを盛り込んだ内容で構成。身近な地域の歴史や伝統文化を学ぶ地域研究、大学施設でのバイオテクノロジー入門、広島・沖縄での平和学習、震災学習など、東洋大学や教員のネットワークを駆使した多彩なプログラムが並ぶ。いずれも現地に足を運び、専門家から話を聞く体験の場を設定。「自分の考えが、いろいろな考え方のひとつでしかない」と気づく。そこから世界は広がります。

大森校長は6年かけて築いた礎を、さらに進化させていく方針だ。

国際交流プログラムにも「調べる・書く・発表する」というプロセスが組み込まれている。河口湖畔のセミナーハウスでの「English Spring

「Camp」では、富士山について調べ学習を行ったうえで、現地で東洋大学の教授や留学生に指導を受けて英語でプレゼン。こういった体験を海外語学研修やカナダの大学でのPBL（課題解決型学習）につなげていく。通常の授業でも思考力を深める工夫が凝らされている。例えば高校の生物では始業前に生徒が疑問を板書し、それに答える形で授業が進む。「わからないことを表現することで向学心が生まれる。だから授業も熱心に聞かし、それが知識として身に付き探究心も深まります」（大森校長）。気がつけば解明されていない領域まで興味及び、そこから目指すべき進路が明確に見えてくる。

「これがアクティブラーニングの本来的べき姿」と語るのは、中高一貫コース主任の黒河潤二先生。「アクティブラーナーをつくるためには、教師がどれだけ多くの引き出しを持ってファシリテーションできるかが大切です」。教員はファシリテーターとして、学びを促しながら生徒一人ひとりの成長を後押しする。それこそまさに次世代に向けた、新しい教育の姿だといえる。

School Data

〒671-2201
兵庫県姫路市書写1699
☎079-266-2626
<https://www.toyo.ac.jp/himeji/jh/>
●創立 1963年
(中学校は2014年)
●交通 JR「姫路」駅から徒歩約30分

コネットの目

「キャリア・フロンティア」と日々の授業で本物の思考力を育む▶6年間の新教育への挑戦が、今春卒業した中高一貫1期生の進路実績に結実。中核にある「キャリア・フロンティア」、PBL学習、そして日々の授業すべてが相乗効果を発揮し、社会が求める「深く考える力」をじっくり育む。2期生のさらなる活躍に期待したい。

同志社香里中学校・高等学校

Homepage



キリスト教主義に基づく全人教育 「自治自立」の精神が可能性の扉を開く

来年春に完成予定の「メディアセンター」は、生徒たちが毎日通る中庭に造られ、2階部分で他の校舎とつながるつくり。



from the School

瀧 英次校長



スキルアップに必要な「学ぶ力の継続」は、中高時代に培われた探究心が大切です。



左／タブレットを使った授業。2021年入学の高1から、1人1台端末を使用できるよう整備する。
下／同志社の創立者・新島 襄が学んだアメリカのフィリップス・アカデミーでの夏期研修。



上／海外研修や国際交流プログラムが多彩に用意されている。



右／高2の修学旅行はハワイへ。現地の高校生と交流する。

創立者・新島 襄の志を受け継ぐ、大阪で唯一の「同志社」。キリスト教主義・自由主義・国際主義を三つの柱として、自治自立の精神を持って行動できる人間の育成を行ってきた。瀧 英次校長は「毎年95%以上が同志社大学・同志社女子大学へと進学するため、大学までの10年間を見据えた一貫教育を実践しています」と語る。

勉強はもちろんボランティア活動や部活も盛んで、中高一一緒に活動しているクラブも多い。そんな自由闊達で自主性を重んじる校風に憧れ、遠方から通学する生徒も多く、始業時間は8時50分に設定されている。準備を重ねてきたICT環境の整備も、2021年にひとつの到達点に達する。高校生が一人一台使用できる端末の完備と、「メディアセンター」の完成だ。「メディアセンター」は約7万冊の蔵書がある図書館に加えて、ICT教育のラーニングコンテンツを備えた空間。調べ学習、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどに対応し、生徒の深い学びを支援する施設となる。「書物は人類の叡智の蓄積。中高生の時期は、読書によって知識を養うことを身に付けさせたい。これからの時代は、発信力とともに、正しい情報を選別できる管理能力が求められます。プロジェクト型学習やアクティブラーニングで思考力を培い、

10年一貫で人間力を磨き 学び続ける能力を育む

表現や発信の道具としてICTを活用できるようになってほしい」（瀧校長）

また、同校の国際主義を象徴するのが、海外研修や国際交流プログラムの多彩さ。ニュージーランドとカナダで行う3週間の夏期語学研修（中3〜高3）、アメリカ、イギリスでの11日間の春期語学研修（中3〜高2）、新島 襄が学んだアメリカのフィリップス・アカデミーでの夏期研修（高1〜高3）、夏期休暇に行う3週間のオーストラリア短期交換留学（高1〜高3）など枚挙にいとまがない。昨年度からは中3の3学期を使ったニュージーランドへのチーム留学も始まり、英語力だけでなく人間としての成長も期待されている。

さらに基盤であるキリスト教主義は、こんな先行きが不透明な時代にこそ見直されるべきだという。同校では、生徒たちは礼拝での講話や学校行事を通じて、互いの違いを認め合うことで他者を思いやり、協働する力を身に付けていく。成長期のそんな経験をベースに国際教育によって視野を広げる。これこそ真にグローバルな教育といえるだろう。

School Data

〒572-8585
大阪府寝屋川市三井南町15-1
☎072-831-0285
<https://www.kori.doshisha.ac.jp/>

- 創立 1951年
- 交通 京阪電車「香里園」駅から徒歩約18分

コアネットの目

大学まで10年間の「同志社教育」に新たな魅力が加わっていく▶キリスト教主義に基づく全人教育という柱は不変であるが、教育活動の進化は加速していく。完成が待ち遠しい「メディアセンター」は、ICT環境整備との相乗効果で思考力、発信力を伸長させる基盤になるだろう。生涯学び続ける資質の獲得も大きな魅力だ。

雲雀丘学園中学校・高等学校

Homepage



「一貫探究コース」を設置し 人生を自ら切り拓く自立型人間を育成

from the School



探究科 車多厚志先生

早期から本物を体験することで
キャリア意識も育みます。

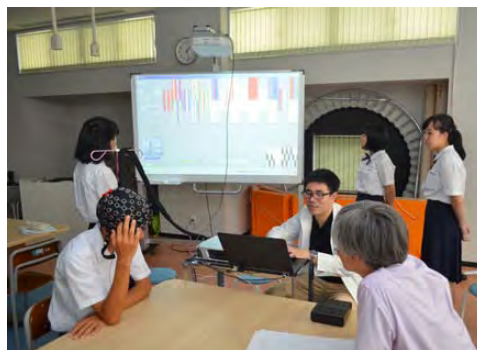


左／鳥取大学医学部生命科学科での探究プロジェクトでは、救急ヘリなど医学・保健学の体験実習のほか、脳細胞やがん細胞の観察研究など幅広いテーマを実施。

下右／森ノ宮医療大学作業療法学科との連携で行われた「目で見える脳活動」の探究プロジェクト。
下左／サントリー生物有機科学研究所での「探究プロジェクト」は、5日間で研究者一人が生徒一人を指導するという貴重な機会を設けている。



大阪工業大学との「探究プロジェクト」では、都市デザインや建築について学習。



企業ともコラボレーション。本田技研工業による水素エネルギー車について学習。学校内で燃料電池車CLARITYを見学。

興味に応じて自由に学ぶ 特別授業を開講

初代理事長でサントリー創業者の鳥井信治郎氏が唱えた「孝道（親孝行）」と「やってみなはれ精神」の下、主体性・積極性・チャレンジ精神を備えた人間力を育む雲雀丘学園中学校・高等学校。近年は、現役生の4割が国公立大学に合格するなど進学実績も伸ばしている同校が、2019年度に中高一貫の「一貫探究コース」を新設した。その理由について車多厚志先生は、「自分で人生を切り拓いていける自立型人間の育成を目指すために導入しました」と語る。

「一貫探究コース」では、カリキュラムを全面的に改編。従来の教科学習に加えて、生徒の興味の幅を広げ、学習への主体性やチャレンジ精神を育む「探究ゼミ」と「探究プロジェクト」を導入した。

「探究ゼミ」は昼休みや放課後に開かれ、中高の生徒が自由に受講できる特別授業だ。校内の教員の得意分野を活かし、脳科学、校内でのビオトープや水田造り、鉄道工事の現場見学、現代美術の作品制作ほか幅広いテーマを展開している。

「教員自身が、おもしろい」生徒に伝えたいと思うテーマを開講しています。基本的に校内で行うプログラムですが、現代美術の制作では公共施設での作品展示、鉄道見学では鉄道研究部の生徒が発表を行うなど、活動の幅が広がっています。中高の生徒と一緒に学ぶゼミも多い

で、部活以外での学年を超えた交流も活発になってきたと思います」

「探究プロジェクト」は、大学・企業・研究機関など外部連携を通じて学ぶ。昨年度の中学生は水素エネルギー、漢方薬、建築設計など5テーマで実施。各テーマとも事前学習、連携先講師のレクチャー、現地学習レポート、ポスター発表を行い、専門分野の理解を深めている。

「高学年のプロジェクトでは、大学病院での外来診察や手術の見学なども行いました。探究ゼミと同じく、本物に触れることで専門分野の学びへの意欲や大学進学、将来の仕事への関心を広げたいと考えています」と車多先生。

今後、中3、高1では「サイエンスチャレンジ」「グローバルチャレンジ」「アカデミックチャレンジ」の各コースで学び、以降は文系探究、理系探究として学びを深めていく。新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」にも対応した新コースでの教育。生徒たちのさらなる成長に、大きな期待が寄せられている。

School Data

〒665-0805
兵庫県宝塚市雲雀丘4-2-1
☎072-759-1300
<https://hibari.jp/>

- 創立 1949年
- 交通
 - 阪急宝塚線「雲雀丘花屋敷」駅から徒歩約3分
 - JR宝塚線「川西池田」駅から徒歩約12分

コネットの目

「やってみなはれ精神」が人間力を大きく伸ばす▶創業者から脈々と受け継がれてきた挑戦心は、今も学校の根幹にある。紹介した「一貫探究コース」の「探究ゼミ」、「探究プロジェクト」の活動内容からも、教師陣の意気込み、迎えた1期生たちへの期待感が伝わる。堅調な進学実績の要因はここにあるのではない。